ハンドボール「第29号目次」

昭和40年12月号

〔表紙写真〕 女子世界選手権大会でポーランドを破った瞬間の日本チーム。左から2人目は宇井主将。

私の言葉

ジュニアの養成を

梶浦暲一（愛媛県協会長）

私は球技の名門である大阪天王寺中学、浪速高校（旧制）と学生時代は大阪で過ごしました。スポーツは中学時代から野球を、また高校時代は野球やらラグビーを毎日、日が暮れるまでボールを追って走ったものである。その高校時代のラグビーをやっていたころ、こんなエピソードがある。京都大学との定期戦で毎年、100点以上の差をつけられ、1トライの実績もない状態であった。

卒業前の秋のゲーム中にスクラムから出たボールを持って50ヤード以上も走り、インゴール寸前、タックルされながら1トライをあげた。敗れたりとはいえ、大いに意気上がり、後輩のためよき実績となった。そのときの感激は、いまなおお忘れることのできない思い出である。この感激こそ、スポーツの場の良いところである。

ハンドボール協会長をお受けする動機は、全然しろうとである私に、学友であり、現愛媛県ホッケー協会理事長の佐藤氏のすすめや、県協会の幹部の方のすすめによるものでした。新興スポーツであり、青少年に最適であるこのハンドボールに関心を持ち、スポーツを根から好きであるこの気持ちが私を動かしたのです。

協会発足いらい15年。ようやくハンドボール人口もふえ、レベルも全国水準に達した。一般男女、高校男女、教員と全国大会に毎年優秀な成績を残している。この15年間の協会の苦労こそ、その実績が表明しているのです。昭和26年には西日本大会、27年には全日本東西対抗、28年には第8回国体ハンドボール競技を今治市で開催し、歴史の第一歩を進んだのである。また31年には西日本大会を、32年には宿望の全国高校大会を松山で開催しました。その間、全国的レベルである技術を目の前で見せつけられ、その向上に大いに貢献してきました。また協会発展にはよき指導者、協力者を得ることこそ重大なことです。かつて国際ゲーム、全日本選手権、東西対抗の選手権を持ち、そのメンバーであった現松山商科大学越智武氏や新居浜工高の高橋満年氏を中心に、幹部の方の協力体制がよくできていることです。現副会長であり、今治市教育委員会、保健体育課長の藤田照明氏こそ忘れ得ぬ人物である。現在の最大の目標は全国大会での優勝です。四国の土地に優勝の喜びを持ってくることです。この目的達成にはジュニアを養成すること、中学校の教材への採択、中体連への呼びかけなど残された問題はたくさん残っている。

故式場隆三郎会長の葬儀

劇団「民芸」の大合唱

故人にふさわしい盛儀



〔ありし日の式場会長〕 日本女子チーム歓送会に出席した式場会長。右端はあいさつする高嶋団長、式場会長の左はポルトガル協会のフアースト会長。右は馬場副会長。 （10月20日・体協で）

輝く勲記，勲章，褒章

11月27日・青山葬儀所で

故式場隆三郎会長の葬儀は11月27日正午から東京・青山葬儀所で盛大に行なわれた。葬儀所前の広場には日本ハンドボール協会、東京都ハンドボール協会からの花輪はじめ花輪の数は約100。入り口には関東学連、東京都高体連の各チームが校旗を立てた。

祭壇中央には式場会長の遺影。そのすぐ下には政府から追贈された「正五位勲三等」の勲記、勲章、それに藍綬褒章が飾られた。祭壇の左側に秩父宮妃殿下からの生花、右側に高松宮殿下からの生花、さらに自民党総裁佐藤栄作氏、同幹事長田中角栄氏、日本ハンドボール協会、東京都ハンドボール協会、全日本実業団ハンドボール連盟、全日本学生ハンドボール連盟、全国高体連ハンドボール部、日本体育協会長石井光次郎氏（法務大臣）、日本医師会、劇団「民芸」、その他関係団体からの生花が飾られ、故人の業績にふさわしい盛儀だった。

式は日本医師会会長の武見太郎氏が葬儀委員長となり、日本ハンドボール協会から副会長馬場太郎、同鈴木達雄（レナウン工業社長）、全日本実業団連盟から古賀和佐雄会長、東京都協会から渡辺和美会長、外山准二理事長、黒川正雄理事、小田善一東京タイムス社長、スポーツ団体から松方三郎（日本山岳会会長）、山辺貞雄（日本体育協会事務局次長）らが参列。馬場副会長が弔辞を読み上げた。劇団「民芸」を代表して俳優宇野重吉氏の弔辞、劇団「民芸」の座員による大合唱があったあと、一般の告別式に移った。

一般告別式は八田一朗氏（日本アマチュア・レスリング連盟会長）、宇佐美日本銀行総裁、ハンドボール界から三浦元秀（芝浦工大事務局長）、渡辺五郎兵衛（新潟）、村田弘（大阪）、井田万三郎（埼玉）、亀岡成昌（愛知紡）、レナウン女子チーム、古賀健一郎（千代田印刷機専務）、全日学連、高体連、中体連、東京都協会役員らが焼香した。 （了）

故式場会長と本誌

第2次大戦後の日本ハンドボール界と、文字どおり苦楽をともにされた故式場隆三郎会長の思い出は尽きない。球界のすべての事業が故会長の恩恵を受けているのと同じように、本誌もまた、故会長のなみなみならぬご厚意によって誕生し、育ってきたといってよい。

本誌の創刊は昭和35年5月。創刊できたのは、故会長がポンと投げ出してくださったポケットマネーによるもの。その後も、本誌の運営には多大の関心を払ってくださった。そのご援助も再三ならず、しろうとの作る雑誌はすぐつぶれるなどという心配を通り越すことができた。物資面だけでなく、故会長自身、かつては東京タイムズ社長をつとめられ、また医学界の同志と随筆雑誌なども手がけられていたことから、編集内容にもたびたびアドバイスをいただいていた。

「出しているだけではなく、人々に読まれる雑誌を作るのはたいへんむずかしいものですヨ」と言われた言葉は特に忘れられない。本誌もようやく、協会の事業の一つとして根をおろしてきた。式場会長の功績は大きい。 （了）

式場さんの思い出

オリンピックを見てもらいたかった

田畑政治（日本体育協会理事）

もうずっと前に式場さんが、ガンで再起不能と聞いていた。ことしの春であったか、ハンドボール選手の中国遠征の歓送会のとき、



日本女子チームと記念撮影、前列左から２人目はポルトガル協会のフアースト会長夫人。前列右から２人目が故式場会長（10月20日夜・岸記念体育舘で）

式場さんの元気なお姿を見て、いい意味で意外の感を持ったことを思い出す。その後はお会いしていないので、今度の訃報は私には突然のことであった。

私が式場さんに初めてお会いしたのは、戦後初参加のヘルシンキ・オリンピック大会に式場さんが視察員として同行されたときである。当時は率直にいって、宣伝屋というか他人を利用する人というか、そんな先入感があってどうも好きになれなかった。その後、式場さんの親友である東京タイムスの岡村二一君から岡村君のパージ時代、岡村君ならびに東京タイムスにたいして式場さんの寄せられた誠意ある配慮の話を聞き、心温まる思いがした。そして私の印象は誤解であるにちがいないと思うようになった。それでも、どこか心のすみにひっかかるものが残っていた。

それが今回、真に式場さんを知る人たちの弔辞で、その人柄や数々の輝かしい業績を聞いてすっかり消え去り、逆に長い間の自分の不明を恥じて心から死去をいたむ気持ちになった。ここに謹しんでおわび申しあげます。

私がいま思い起こすのは、前述のハンドボール選手歓送会のときの式場さんのことである。その席上、私に「なにかいえ」というので私は

「東京大会まではハンドボールがオリンピックで行なわれるということは全く考えられないことであったが、いまとなると情勢が一変して、メキシコ大会の次か、おそくともその次には必ず加えられることになると思う。というのは国際オリンピック委員会がきわめて一部を除き、その大多数が無定見、無見識で、いまは通用しない貴族的特権意識の上にあぐらをかいて世界スポーツ界から浮き上がってしまう傾向が強くなった。各国NOCと各国際競技連盟の間に自らの手でこれを改革しようとする意識が盛り上がってきた。

そのためNOCと国際競技連盟との間に連帯感が強まり、その連帯感の中からIOCから公認されていながら、オリンピックでは実施されていない3競技にたいする同情が巻き起こり、21競技全部やれという意向が支配的になりつつある。IOCがいつまでもこの要請を押えることはできない。この情勢だから今後1、2回のうちには必ずハンドボールもやれるようになる。今度の遠征には、それを頭においてがんばってほしい。」と言った。

当時は憲章まで改正して18競技に制限してまもないときであったから、近く実施競技がふえるなど考えた人はいなかった。私のことばは実現性のない、単なるうれしがらせのお世辞と受け取られたかもしれないが、それでも式場さんは喜んで、その日が待ちどおしいという顔をしていられたのをいまでも覚えている。さきのIOC総会で、一般の人たちには全く意外のことであったろうが、私の言ったとおり、ハンドボールはメキシコ大会の次回から21競技全部実施されることに決定した。

この大会でハンドボール日本代表選手団が世界の強豪を相手に活躍する壮観を式場さんに、その目でぜひ見てもらいたかった。しかし、それも今となっては不可能のこととなってしまった。それが私には、いかにも残念でたまらないのである。（了）

—○—

F.F.H.B

才3回女子7人制世界選手権大会

第3回女子7人制ハンドボール世界選手権大会は11月7日、9日、11日、13日の4日間、西ドイツの各地で行なわれた。日本はソ連の棄権によって、準決勝リーグ（A組）進出の幸運に恵まれた。この結果、準決勝リーグは3戦3敗したが、最終戦の7―8位決定戦で見事ポーランドを1点差で破り、世界選手権大会で初の1勝をあげた。日本チームは1962年の第2回大会いらい10戦目で勝利をあげた。なお日本チームは12月5日の日航機で帰国した。



日本7位、待望の初勝利

優勝は~~ユーゴ、~~ハンガリー 西ドイツは3位

2位ユーゴ

日本、A組で最下位

◇準決勝リーグ

▽第1日（11月7日）

（A組）

西ドイツ 15（8―1 7―6）7 日本

ユーゴ 11―6 デンマーク

（B組）

ハンガリー 7―4 チェコ

ルーマニア 4―4 ポーランド 引き分け

▽第2日（9日）

（A組）

デンマーク 10（5―4 5―5）9 日本

ユーゴ 8―4 西ドイツ

（B組）

チェコ 15―7 ポーランド

ハンガリー 9―6 ルーマニア

▽第3日（11日）

（A組）

ユーゴ 9（5―3 4―2）5 日本

西ドイツ 7―5 デンマーク

（B組）

ハンガリー 15―5 ポーランド

チェコ 8―8 ルーマニア（引き分け）

▽13日（順位決定戦）

7―8位決定戦

日本 6（4―1 2―4）5 ポーランド

準決勝リーグ成績

A組	勝数	負数	引分	勝点	得点	失点
ユーゴ	3	0	0	6	28	15
西ドイツ	2	1	0	4	26	20
デンマーク	1	2	0	2	21	27
日本	0	3	0	0	21	34

B組	勝数	負数	引分	勝点	得点	失点
ハンガリー	3	0	0	6	31	15
チェコ	1	1	1	3	27	22
ルーマニア	0	1	2	2	18	21
ポーランド	0	2	1	1	16	34

日本、後半に善戦

西ドイツ15―7日本

▽11月7日（午後7時20分、西ベルリン・スポーツパレス）（A組準決勝リーグ）

西ドイツ 15（8―1 7―6）7 日本

▽レフェリー フロップ（ハンガリー）

得	（日本）		（西ドイツ）	得
0	古谷	GK	イレネ	0
0	川崎	GK		
4	宇井	FP	キュール	2
0	久連松	FP	ホフマン	3
0	笠原	FP	メーザー	2
1	黒川	FP	バウアー	2
1	早川	FP	ギゼラ	1
1	鈴木	FP	エルケ	0
0	永井	FP	ゲルダ	0
0	新保	FP	クリスタ	3
0	加藤	FP	ドリス	2
		FP	ヤコブ	0
7	（4）	7MT	（4）	15

宇井、がんばる

〔評〕西ドイツのスローオフ。開始直後の30秒に鈴木がシュートしたが、無理な体勢だったので得点にならず。続いて1分30秒に早川もシュート。これも決まらない。教えたフォーメーションではなく単発だ。案のじょう、こちこちになっている。ベンチの声も通らない。最初に得点したのは1分40秒に西ドイツのクリスタである。西ドイツは3分30秒にバウアーのゲットで2―0。日本は7分40秒に宇井が7MTを決めて2―1とした。その後西ドイツに圧倒され、前半終了までシュートはたった3本。これがみんなはずれた。結局前半は宇井の1点だけ。

ハーフタイムに8分間、みっちり話す。どうやらひと心地ついたようだ。果たせるかな――後半は全く対等に試合を進めた。会場の西ドイツの大観衆から拍手の波。試合前の西ドイツの練習を見て「これならなんとかいける」と直感したのだが…。日本は一昨日までのプレーの50％も力が出なかった。全力を注いだが、残念。選手たちは「前半はなにをやっていたのか、わからなかった」とか。

この試合、宇井の4点はいずれも7MTである。

黒川、猛然と抗議 惜しい1点差

—デンマーク10—9日本—

▽11月9日（午後7時15分、ハノーバー・スポーツホール）
（A組準決勝リーグ）
デンマーク 10（5−4、5−5）9 日本
▽レフェリー ルーマニア

長蛇を逸す

〔評〕"長蛇を逸す"ということばは、きょうの試合のために用意されていたような気がする。世界選手権での初勝利を目の前にしながら、10−9とわずか1点差で敗れた。惜しい。

日本のスローオフで開始。1分30秒にまず早川が中央から左下へ決めた。1−0。デンマークは下が弱い。体育館は割れんばかりの大歓声。きょうは、反則を取られるぎりぎりまでボールをキープするよう指示した。選手たちはこれを忠実に守った。こんなことは、いままでになかったことだ。"なんとかやれるぞ"というヒラメキ

得	(日本)		(デンマーク)	得
0	古谷	GK	ヘルガ・ハンセン	0
0	川崎	GK		
2	宇井	FP	アナ・ハンセン	1
0	久松（連）	FP	ビルテ・ハンセン	1
0	笠原	FP	ミッケルセン	0
0	黒川	FP	アネスリー・ニールセン	3
3	早川	FP	アンデルセン	1
3	鈴木	FP	クリスチャンセン	1
1	永井	FP	レーネ・ハンセン	1
0	加藤	FP	レーナ・ニールセン	0
0	新保	FP	ニールソン	1
		FP	ラムスセン	1
9	(0)	7MT	(2)	10

が脳裏をかすめる。3分30秒ビルテのシュートで1−1。以後日本は15分間得点なし。デンマークは6分30秒アンデルセン、9分30秒アネスリー・ニーセンがゲットして3−1とリード。

日本のシュートはわずかにはずれる。不運というほかはない。10分から13分までに4本のシュートが決らない。日本の動きはいい。16分30秒、宇井が左45度から猛烈に飛び込んで3−2と1点差に詰める。18分30秒、鈴木が右下に決めて3−3。満場騒然。レフェリーの笛は全く聞えない。19分アネスリー・ニールセンに得点されて4−3となったが、19分30秒サウスポー永井が右下に決めて再び4−4。これで前半終了かと思ったとき、左サイド角度0の地点で、笠原がデンマーク選手にちょっと触れたので7MTを取られた。大会本部も、観衆も全く意外という表情。結局ラスムセンに7MTを決められて前半は5−4。

後半になるとデンマークは猛烈に突っ込んできた。それを黒川が正面から当たる。だれが見ても明らかなチャージである。ピ、ピーッとホイッスルが鳴る。7MTである。あのおとなしい黒川が「私は押されてラインクロスをした」と猛然と抗議したがダメ。このころから満員の観衆や大会役員は日本を応援。レフェリーのジャッジはどう見てもデンマークに有利な形。西ドイツ役員たちは怒り出す。この会場の審判長がデンマークなので、それに義理立てしているのではないか。こんなことはスポーツマンだからいいたくないが、つい"グチ"が出る。

国際試合には、この程度のことはツキもの。私はいままでずいぶん国際試合を見てきたが、いざ自分がその被害者になってみると虫がおさまらない。黒川と同じようなプレーをデンマークがやっても、7MTにしない。7分30秒早川、13分50秒鈴木、14分10秒宇井が決めて10−7と3点差に詰め寄った。さらに16分30秒早川、18分30秒鈴木が決めて10−9と1点差。ここでデンマークは逃げ込みをはかり、タイムアップまでの1分30秒の間、ローリングに出た。レフェリーがいまにホイッスルを吹くか、いま吹くかと待ったが、ついに吹かず。タイムアップのホイッスルが…。このときの大会役員、観衆の騒ぎはとても日本にいては想像もつかない。

西ドイツのビリング氏が駆けてきた。「日本はレフェリーに負けた。デンマークはレフェリーのおかげで勝った」と言う。私の親しい友だちがきて「あんなのはハンドボールじゃない。あれが7MTなら、日本には3−4本あった。またタイムアップ10秒前にホイッスルを吹くべきである」と怒り出す始末。しかし負けはあくまで負けである。弁解の余地はない。

それにしても対西ドイツ戦。対デンマーク戦でみせた日本女子チームは大いに自信を持っていい。私は思った。中学生で背が高く、動きの早い選手を、また左利きの選手を発掘すべきことを…。

日本女子チームの世界選手権成績

●	8—17	ハンガリー	1962. 7. 7	第2回世界選手権（ルーマニア）
●	7—12	デンマーク	7. 8	〃
●	10—16	ポーランド	7.11	〃
●	6—15	西ドイツ	7.12	〃
●	9—17	チェコ	1965.10.24	第3回世界選手権（チェコ）
●	5—17	チェコ	10.26	〃
●	7—15	西ドイツ	11. 7	（西ドイツ）
●	9—10	デンマーク	11. 9	〃
●	5—9	ユーゴ	11.11	〃
○	6—5	ポーランド	11.13	〃

ラフ・プレーのユーゴ

ユーゴ 9―5 日本

▽11月11日（午後8時50分、ボッフム体育館）

（A組準決勝リーグ）

ユーゴ 9（5―3 / 4―2）5 日本

▽レフェリー　ハンガリー

へたなレフェリー

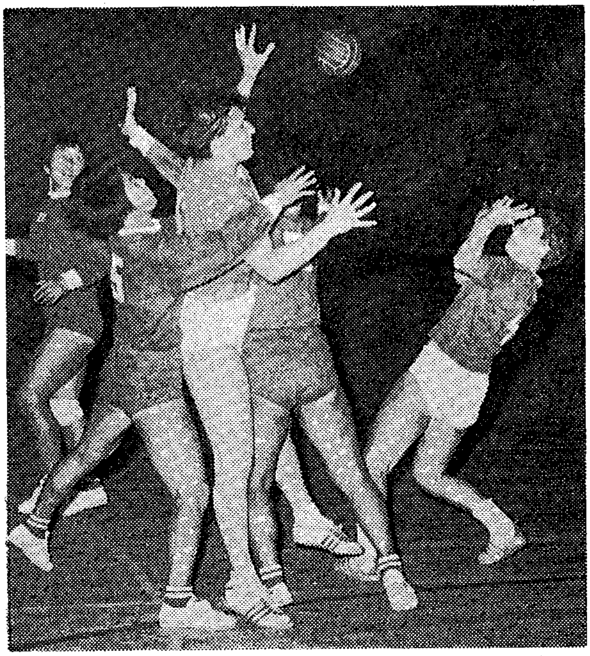
〔評〕午後6時バスで出発。途中アウトバーンで接触事故があり、危うく命拾い。選手たちは一瞬キモを冷やす。西ドイツの新聞によると、きょう常陸宮ご夫妻がハンドボールをご覧になると報じている。みんな大喜だ。

ユーゴは優勝候補だけあってさすがに強いが、絶対負ける相手ではない。前半は全く互角。30秒ユーゴはセゼッチのゲットで1―0とする。3分に早川が決めて1―1、ユーゴは3分30秒ベイノビッチ、5分30秒ラドウノビッチが決めて3―1。9分30秒ベイノビッチが2点目をあげて4―1。日本は押し気味に試合を進めているが、きわどいところでシュート4本がポールに当たって得点に結びつかない。ユーゴのベンチは色を失う。

10分早川が決め、12分宇井が7MTを決めて4―3と1点差。ユーゴのプレーは感心しない。ラフプレーである。「対西ドイツ戦でユーゴは柔道をやっていた。あれはハンドボールじゃない」と西ドイツの新聞にこっぴどくたたかれていた。ユーゴの選手が少しでも、きたないプレーをすると、大観衆がピーっと口笛を鳴らす。私の見解では、退場、7MTのケースがユーゴに2回はあったと考えている。今大会のレフェリーは、あまりよくない。観衆はルールをよく知っているのだから、レフェリーはちゃんとしたジャッジをしなければいけない。とにかく前半は5―3とユーゴがリード。

後半1分に早川のロングシュートが右下にあざやかに決まる。5―4と1点差。「これならイケる!!」と思ったとたん、日本の動きが急に悪くなった。ただディフェンスがよかったのでひと安心。ユーゴのベンチは目の色を変えて怒鳴っているが、得点とはならない。11分宇井が7MTをはずしてから、日本選手の疲れが目だち、ついに万事休す。楽しみにしていた常陸宮ご夫妻は姿を見せなかった。

得	(日本)		(ユーゴ)	得
0	古谷	GK	イストバノビック	0
0	川崎	GK	ミラディノビナ	0
1	宇井	FP	ザマルツヤ	0
0	久松(連)	FP	セゼッチ	3
0	笠原	FP	ラドウノビッチ	1
0	黒川	FP	バルト	0
3	早川	FP	ベイノビッチ	2
1	鈴木	FP	ベコビッチ	2
0	加藤	FP	ニンコビナ	0
0	永井	FP	トーマゼック	0
0	新保	FP	レーベルニャック	1
5	(1)	7MT	(0)	9



日本対チェコ戦から（チェコ 17―9 日本）



試合前のペナント交換。（日本―西ドイツ）

日本待望の初勝利

日本6―5ポーランド

▽11月13日（午後4時10分、ドルトムント体育館）
（7―8位決定戦）

日　本6（4―1 / 2―4）5ポーランド

▽レフェリー　ルーマニア

得	（日本）		（ポーランド）	得
0	古　谷	GK	シション	0
0	川　崎	GK		
1	宇　井	FP	ヤボルスカ	0
0	久連松	FP	ドウーダ	0
1	笠　原	FP	テエカ	0
0	黒　川	FP	ミカルスカ	0
3	早　川	FP	トボラ	1
1	鈴　木	FP	ボラニー	1
0	加　藤	FP	レギエン	1
0	永　井	FP	ヌナラ	0
0	新　保	FP	ハリュノビカ	1
			グツイク	1
6	（0）	7MT	（0）	5

10戦目に勝利

〔評〕　1965年11月13日―日本女子チームにとって記念すべき日である。世界選手権に出場することニ度目、1962年7月7日の対ハンガリー戦に敗れていらい、10戦目で晴れの勝利を握ったのだ。しかもポーランドには前回の7、8、9位決定戦に10―16で敗れている。日本チームが世界選手権で勝ったのは1964年3月6日（パルドビッチ）の男子世界選手権で日本がノルウェーを18―14で破っていらいのもの。

この体育館は西ドイツでいちばん大きい。満員の観衆は日本を応援する。心強い。カメラのフラッシュ、テレビのライトで会場は相当な熱気である。ポーランドのスローオフ。日本はなかなかフォーメーションが組めず、シュートも惜しいところではずれる。7分早川が左下へ先取点をあげる。8分20秒早川が追加点をあげて2―0。好調である。10分20秒笠原が左45度からジャンプシュート。これが見事決まって日本3―0。これでひと安心。なおも攻撃の手をゆるめず、攻めまくる。11分20秒鈴木が中央から右下にゲットして4―0。ここで一気に勝負に出ようとして、久連松、永井を出したが、得点できなかった。19分30秒レギエンにロングを決められたが、前半4―1リードする。

最高の出来

きょうのディフェンスは最高の出来だった。ポーランドにロングを許さず、ポストプレーも完全につぶしていた。それにしても前半に得点機を5度もつぶした。特に得意の速攻のタイミングが合わない。後半になると動きが重くなった。心配だ。しかし4分50秒にあざやかな速攻を展開、宇井が右サイドから飛び込んで5―1と再び4点差にした。このころからポーランドは、ディフェンスを浮かしてカットをねらう作戦に出た。だが10分30秒早川がまたも左下に決めて6―1。ポーランドは完全なプレス戦法に切り替えた。

勝って泣き出す

日本の選手の中には、これで逃げ切ろうとする意志が見えてきた。ベンチから大声を出しても、全然通じない。時間の立つのが長いこと。これほど感じたことは、いままでになかった。12分からポーランドのプレスに圧倒され、19分20秒ハリュノビカに決められて6―5と1点差。残り時間は40秒。早川は鈴木、早川が連続シュートしたが決まらず、やがてタイムアップのホイッスル。スコアは6―5。日本は勝ったのだ。そして7位になったのだ。

選手たちはこのホイッスルを聞いても、勝ったのか、負けたのかわからない。ベンチが静かだったので、選手たちはしばらくぼう然としていた。カメラマンが殺到する。「おい、日本は勝ったんだぞー」の大声をかけたら、選手たち

日本女子チームの成績（△印は分け）

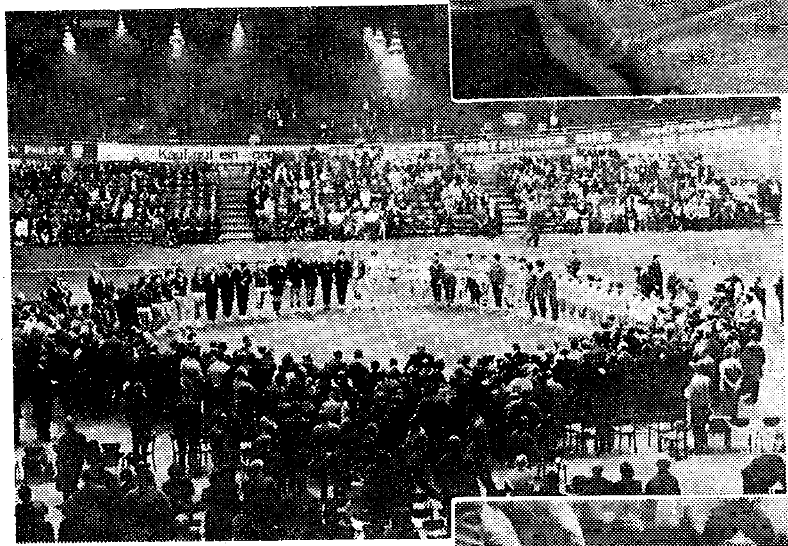
期日	勝敗	スコア	チーム	場　所	大会名
10.24	●	9―17	チェコ	プラハ	世界選手権
26	●	5―17	〃	〃	〃
11. 7	●	7―15	西ドイツ	西ベルリン	〃
9	●	9―10	デンマーク	ハノーバー	〃
11	●	5―9	ユーゴ	ボッフム	〃
13	○	6―5	ポーランド	ドルトムント	〃
10.28	○	15―12	リトビノフ	メジロビ	チェコ親善試合
28	○	21―4	ロコモチワ	〃	〃
31	○	16―8	トレンチーヌ	ブラチスラバ	〃
31	○	16―9	フロホベッツ	〃	〃
11. 1	○	9―7	ニトラ	ニトラ	〃
1	○	16―7	ルジアンスキー	〃	〃
2	○	14―8	ニトラ	〃	〃
4	○	33―4	アルマトルカ	ウスチラベ	〃
14	○	12―8	西ドイツ・ナショナル	ブッペタール	西ドイツ〃
16	○	14―4	ブレーメン	ブレーメン	〃
18	△	9―9	ハンブルグ	ハンブルグ	〃
20	○	16―6	フランクフルト	フランクフルト	〃
23	○	17―13	フランスナショナル	パリ	フランス〃
24	○	27―2	U.S イブリー	イブリー	〃
25	○	13―8	F.S. コロンブス	パリ	〃
26	○	16―2	ステラ	サンモール	〃
27	○	12―2	太西洋岸選抜	ナント	〃

23戦17勝5敗1分け

～世界選手権から～



久連松のシュート →
（日本対ユーゴ）

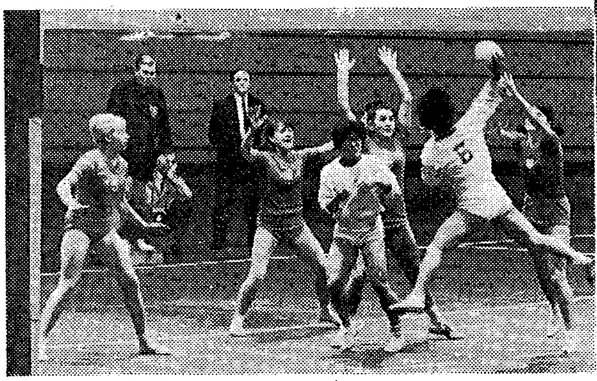


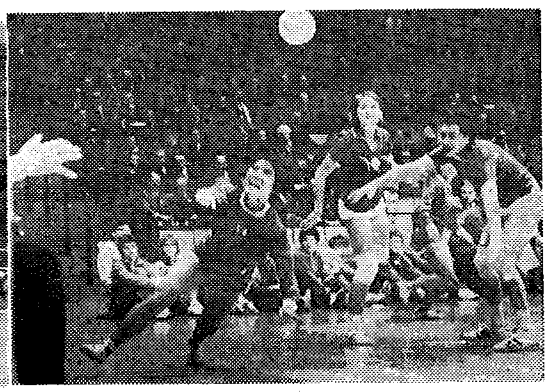
世界選手権大会
← 閉 会 式



鈴木、猛然と突っ込む →
（日本対ポーランド）

〔左下〕 早川のジャンプシュート
（日本対ポーランド）
〔右下〕 笠原のシュート
（日本対ユーゴ）





は「わーん」といっせいに泣き出した。だれがなんといおうとも、試合には勝たなければならない。また勝つためには、あらゆる犠牲を払わなければならない。IHFのワグナー、西ドイツのビリング、ヒック、チェコのボシェックがとびついてくる。「おめでとう」の連発。こんなうれしいことはない。今夜は選手たちと初めてビールで乾杯しよう。

親善試合 日本楽勝

▽11月20日（午後7時、フランクフルト体育館）

日本 16（6―3、10―3）6 フランクフルト選抜

▽レフェリー ベック（オランダ）

得	日本		フランクフルト	得
0	古　谷	GK	ゲルトルート	0
0	川　崎	GK		
3	宇　井	FP	フリーデル	0
2	久連松	FP	ゼーエン	0
0	笠　原	FP	リヒト	0
2	黒　川	FP	メートフェッセル	2
1	早　川	FP	シャペル	1
2	鈴　木	FP	スルクス	2
2	加　藤	FP	ゼンフ	0
1	永　井	FP	ガザーン	0
3	新　保	FP	シェッファ	0
		FP	フラッハ	1
		FP	スルゴート	0
16	（1）7MT		（0）	6

〔評〕　前半10分ごろ、鈴木が腹を強打されて倒れた。顔が真青になり、内臓破裂かと心配したが、単なる打撲とわかってホッとした。試合は後半に日本が得意の走をみせて圧勝した。

フランスにも大勝

▽11月23日（午後9時15分、ポルトドクリシー体育館）

日本 17（11―8、6―5）13 フランスナショナル

▽レフェリー キールホーン（オランダ）

得	日本		フランス	得
0	古　谷	GK	デルビュー・アニー	0
0	川　崎	GK	マローズ	0
4	宇　井	FP	ドミス・ミシェル	5
0	久連松	FP	アンヌマリ	1
3	笠　原	FP	ル　ネ	1
2	黒　川	FP	ジェルメータ	0
4	早　川	FP	エレーヌ	1
1	鈴　木	FP	ダニエル	1
0	加　藤	FP	モ ニ ク	0
1	永　井	FP	アブリーヌ・アニー	2
2	新　保	FP	ノエルフラ	2
		FP	デュパン・ミシェル	0
17	（2）7MT		（0）	13

▽反則退場者久連松、黒川、宇井

〔評〕　試合開始30秒、まず笠原が左45度から右上すみにロングを決めて先行。3分宇井が右サイドから左下すみに、次いで4分久連松、笠原が飛び込み、宇井が7MTを決めて4―0と日本リード。しかし相手もナショナルチーム。ようやく反撃に転じ、9分には4―3と1点に詰められた。10分のとき、フランス選手のシュートが鈴木の顔に当たり、めがねが完全にこわれた。鈴木の顔は血で真っ赤になってその場に倒れる。すぐ救急車で病院にかつぎ込んだ。私（高嶋）はこのあとの試合を見なかった。一段落してコートに帰ってきたらタイムアップのホイッスル。日本が17―13で勝った。

日本は一度もリードされなかったとか。ほんとうによかった。鈴木のけがは幸運にも眼球に影響がない。まぶたの下を約3ミリほど切れた。大事をとって3針ほど縫った。29日午後糸を抜く予定。ステラーのクァレス会長がよくやってくれた。フランス協会のピカール理事長は高熱を押して出てきてくれた。

日本大勝

▽11月24日（午後10時、イブリー体育館）

日本 27（13―2、14―0）2 U・S イブリー

▽レフェリー ジャン・ルロン（フランス）

〔評〕　このチームは昨年まで6年間もフランスのチャンピオンだった。昨年初めてコロンブスに負けたとか。体育館が広く気持ちのいいゲームができた。日本のワンサイド。イブリーの会長は「こんなはずではなかったんだが…」と頭をかいていた。

得	日本		イブリー	得
0	古　谷	GK	T・フランソワーズ	0
0	川　崎	GK		
3	宇　井	FP	シュザンヌ	1
3	久連松	FP	マリ・クレール	0
4	笠　原	FP	シモーヌ	0
5	黒　川	FP	ダニエル	0
1	早　川	FP	エレーヌ	0
0	鈴　木	FP	ドミニク	0
6	加　藤	FP	アニック	0
3	永　井	FP	ル　ネ	1
2	新　保	FP	V・フランソワーズ	0
		FP	ドニーズ	0
		FP	ジョゼット	0
27	（0）7MT		（0）	2

日本3連勝

▽11月25日（午後10時15分、パリ郊外コロンブス体育館）

日本 13（5―5、8―3）8 E・S・コロンブス

▽レフェリー コロー（フランス）

得	日本		コロンブス	得
0	古　谷	GK	プ　チ	0
0	川　崎	GK	カルベーズ	0
2	宇　井	FP	ジェメス	0
0	久連松	FP	ミシェル	0
2	笠　原	FP	ム ニ キ	0
1	黒　川	FP	マ リ ル	4
4	早　川	FP	B・ジャンヌ	0
0	鈴　木	FP	クリスチアーヌ	3
0	加　藤	FP	P・ジャンヌ	0
0	永　井	FP	ネ　リ	1
4	新　保	FP	リリアス	0
13	（0）7MT		（0）	8

〔評〕　コロンブスはフランスのチャンピオン・チーム。シューズからユニホームまで新調し、ものすごい意気込み。ナショナル・チームのメンバーが4―5人いる。きょうはなかなかよくやっている。きょうはこの体育館のコケラ落とし。市長以下市役所のお歴々が詰めかけた。体育館は狭くて暗い。フランス人はどういうものか、暗いのが好きらしい。前半5―5。コロンブスは大喜びで勝つ気でいるらしい。

後半にはいって日本はピッチをあげ、13―8と5点差をつけた。このチームは12月リヨンで開くヨーロッパ・カップ（各国優勝チームによる選手権大会）に出場するとか。

ステラに大勝

▽11月26日（午後9時、サンモール、ステラ・ホール）

日本 16（8―1、8―1）2 ステラスポーツ

▽レフェリー ロペス（フランス）

〔評〕　試合は日本の大勝に終わったが、ステラ・スポーツのクアレス会長らが日本チームの世話をよくやってくれた。クアレス会長は「私たちが1964年に日本へ遠征したとき、日本から受けた親切には及ばないが…」という。よ

得	日本			ステラ	得
0	古谷	GK	GK	デボジャキ	0
0	川崎			デバーアニー	0
2	宇井	FP	FP	プレット	0
3	久連松			レミンド	0
3	笠原			マリフォリヌ	0
2	黒川			ガビュ	0
1	早川			ベナデツ	0
0	鈴木			アレッツ	0
1	加藤			マリフォンス	0
1	永井			シャタル	1
3	新保			アネット	0
				クロディヌ	1
				ステファネット	0
16（1）	7MT			（0）	2

▽交代選手　ロモ・アニー

いことはしておくものだ。ほんとうに献身的な奉仕、ただ頭が下がる。

東洋の魔女強し

▽11月27日（午後10時、ナント市立体育館）

日本 13（7−2 6−0）2 フランス大西洋岸選抜

▽レフェリー　ピロム（フランス）

得	日本			大西洋岸	得
0	古谷	GK	GK	レナ	0
0	川崎			イブリヌ	0
1	宇井	FP	FP	モニキ	0
2	久連松			K・フォンスアーズ	0
2	笠原			ジョゼット	0
1	黒川			アブリーヌ・アニー	0
4	早川			B・フォンスアーズ	1
0	鈴木			ダニエル	1
2	加藤			クリスチアーヌ	0
0	永井			クロウド	0
1	新保			プール	0
13（0）	7MT			（0）	2

〔評〕　ナントはフランスの西部、つまり大西洋岸に近い都市。昨年（昭39）男子チームがフランスで第1戦をやったところ。フランス・ナショナルチームの選手が3人いた。結果は日本の大勝。フランスのテレビ・アナウンサーは「こんなすばらしい女子のチームを見たことがない。まさしく東洋の魔女である」とびっくりしていた。世界選手権を除くと、国際試合、親善試合には全勝。だが、この日の日本チームのできは悪かった。これで全スケジュールを完了した。大崎電気、大洋デパートにたいし深く感謝の意を表します。

なおナント・ハンドボール協会長との話し合いで、大西洋岸選抜チーム（男女35人）は1967年に日本遠征を希望している。また同年ステラ女子チームも日本遠征を申し入れてきた。

大いに自信を持て

西独協会に感謝

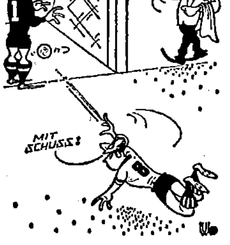
高嶋団長の話　こんどの遠征は大成功だった。ソ連の棄権というラッキーもあったが、ポーランドを破って7位になった。これで日本女子チームも大いに自信を持っていい。デンマークには勝つチャンスがじゅうぶんあっただけに、1点差で敗れたのは惜しかった。世界選手権の西ドイツ、フランスのナショナル・チームを破ったのは、国際試合に自信を持った現われといっていい。7位になったことについて、西ドイツはじめ日本を応援してくれるヨーロッパ各国が喜んでくれた。西ドイツ協会の心からの歓待に感謝している。

日本チームが決勝リーグに進出するというので、渡辺さん（大崎電気工業社長）がわざわざ西ドイツまで応援にきてくださった。これはほんとうにうれしかった。ポーランドに勝てたのも、渡辺さんのおかげだと感謝している。大崎電気の鈴木選手がフランスでの試合中にけがをしたが、元気に帰国できたのはほんとうによかった。これからも大いにがんばりたい。

知らなかった勝利

宇井主将の話　ポーランドに勝ってほんとうにうれしかった。あのとき、タイムアップのホイッスルが鳴っても勝ったとは知らなかった。2点差ぐらいで負けたのだろうと思い、ベンチを見たら、団長さんらの表情が暗かった。〃やっぱり負けたんだわ…〃とがっかりしてベンチへ戻ったんです。ところが団長さんから「オイ!! お前たちはポーランドに勝ったんだぞ」といわれました。私は思わず、アッといった瞬間、目から大きな涙が出てしまいました。それまでは勝っていたなんて思っていなかったのです。このときは、うれしかったですね―。第一、得点掲示板も時計もないんですから…。

＊　＊　＊　＊



—— 日本チーム欧州遠征成績 ——
（　）は世界選手権

成績	
25戦13勝10敗2分（0勝2敗）	昭36・男子
16戦7勝8敗1分（0勝4敗）	昭37・女子
19戦6勝13敗（0勝3敗）	昭38・男子学生
17戦9勝8敗（1勝2敗）	昭39・男子
23戦17勝5敗1分（1勝5敗）	昭40・女子

オリンピック特集――関係者の声

多い「ナショナルチーム編成」の声

1972年のオリンピックからハンドボールが正式種目として36年ぶりに登場する。長い間の念願がかない、日本協会は早くもオリンピック対策に着手した。そこでハンドボールになじみの深い諸兄に喜びの声、オリンピック対策などを聞いてみた。（順序不同）

体育指導要領への復活

思い出す協会設立のころ

塩沢幹（日本体育協会事務局長）



昭和6〜7年ごろ文部省体育研究所の第一所員室で、中園進、本間茂雄の両氏と私の三人が、陸上の三藤氏に加わってもらってハンドボールのルール研究をしていた。ときどき大谷先生や佐々木先生、それに森秀さん、酒井将氏も顔を出された。学校体育の教授要目にハンドボールを加えたらどうかということと、当時ボードを持っていた日本陸上競技連盟から独立して協会を設立しようという希望もあってのことである。そして日本流に送球という名前を選び、ともに実現することができた。

協会当初の事務所はお茶の水の現在の山の上ホテル。その地階北側の一室であった。その後、体協の会合に使うことが多くなったこの部屋に感慨ひとしおなものがあった。初代会長は陸連の平沼会長に兼ねていただき、理事長は中園進氏、私どもは常務理事で、蹴球協会の理事もやった私は隔日出勤。阿部二郎君が連日汗をふきふき活躍していたものである。

そして、あの流れたオリンピックにわが送球協会も一翼をになって準備を進め、私も競技施設の委員として、虎の門の満鉄ビルのOC事務局に出向いて参画したものである。しかし不幸な事態でこの大会は放棄されてしまった。

戦後、関係者の努力で、国内的にも国際的にも大きく躍進した日本ハンドボール協会が、オリンピック東京大会の実施種目にはいりえなかったことは、非常に残念であった。だが、当時の引けぎわがまことによかったのだ。各方面の同情も集まり、IOC総会においても本質論から当然の主張と認められた。そして、第20回オリンピック大会から実施種目になり、晴れて行なわれることになり、初心を貫徹することができた。

他の競技に劣らず、毎年国際競技に派遣される選手団に接するごとに、創設のころを偲び、無量の思いである。オリンピック参加とハンドボール界に尽くされた式場会長の藍綬褒章受賞におめでとうを申し上げる。ところが式場先生は、1972年のオリンピックを見ずに11月21日死去されたことは残念です。オリンピックのハンドボールを見てもらいたかった。

若い力を育てよ

宗形年閑（宗形製作所社長）



ハンドボールが、メキシコ大会の次の大会からオリンピックに参加するという。なにか将来のスポーツのように思われがちだが、これほど現代的なスポーツはない。というのは、個人の技倆の研究は言を待たないとしても、チーム、組織の総合力対総合力の競技である。そこに現代に要求される人間形成に役立つ多くのものがあるからである。

スポーツとしての価値をオリンピックで判定するよりも、やがてオリンピックの種目にはいることは、こういった意味からいっても当然の帰結であって、将来の正しい発展を望んでやみません。それを成しとげるのは若い新鮮な力と情熱であり、それを育てる関係諸役員の努力であり、そしてそれは関係者の希望であり、義務でもあると考えております。

金メダル目ざせ

棚橋義輝（関東学連会長）

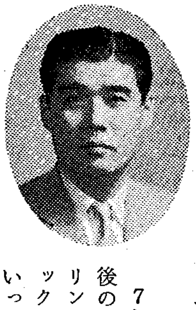


最近わが国においてもハンドボールの普及は急速な展開をみせている。一方、特に古い歴史を誇るヨーロッパ諸国のハンドボール界の実情から推して、この種目が東京オリンピックへ採用されることは必至のことと考えられていた。ところが、ついにそのことなしに終わったのは、関係者のひとしく遺憾としたところであった。しかるに、伝えられるところによると、先般IOCは、1972年のオリンピックにはハンドボールの採用を決定した。われわれにとってこれ以上の朗報はない。

それにしても気がかりなのは、せっかくの機会に恵まれながら、わが国の実力は国際的水準に照らすとなおかなりの隔たりがある。一段の向上充実が要請されなくてはならない。すべての難関を排除して参加するからには、金メダルを目ざしてほしい。いまから怠りない準備を固めたいと思う。

みんなでバックアップを

渡辺和美（東京都協会会長）



7年後のオリンピックといっても、すぐやってくる。のんびりしてはいられない。正式種目になった以上、いまからすぐオリンピック対策を立てるべきだ。ハンドボールはマイナー・スポーツとして冷たい目で見られがちである。だからみんなが、より以上に努力しなければならない。他人まかせでなく、いますぐスタートしよう。

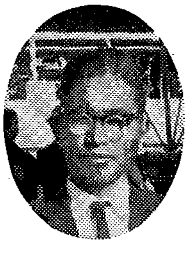
オリンピック対策―私はまだ日本協会がどのような構想を持っているか知らない。1967年1月の第6回男子7人制世界選手権大会の構想もまだできていない。ことし12月の第12回全日本選抜ハンドボール選手権大会から優秀選手を選出してナショナル・チームを編成するそうだが、これが掛け声だけに終わることなく、終始一貫した方針のもとに実施に移してもらいたい。それが1972年のオリンピックに通じることだ。

日本協会の高嶋君は精力的な人である。40日以上の海外遠征でかなり疲れていることと思う。日本協会の諸君は高嶋君のよきアシスタントとして協力してほしい。協会あげて協力体制をとることが、すべての第一歩となる。高嶋君は今回のヨーロッパ遠征で、IHFの首脳部とオリンピック対策について具体的な話し合いをしてきたと思う。これを基礎資料としてオリンピック対策を立てることだろう。おそくとも昭和41年2月の全国評議員会までに、世界選手権、オリンピックへの構想をまとめて提出してほしい。

この構想の中には、ナショナル・チームの編成、強化合宿計画、日本チームの招待、ヨーロッパチームの海外遠征など意欲的なスケジュールが織り込まれるものと思う。日本協会にすべてをまかせるのでなく、地方の都道府県協会も、学連も、実業団連盟もバックアップすることを忘れないことを全国のハンドボーラーの諸兄にお願いしたい。

すばらしいプレゼント

栗脇巖（愛知県協会理事長）



朝日新聞の朝刊に1972年度開催のオリンピック競技種目の中にハンドボールが取り上げられていたのを見て、〃快哉〃を叫ぶとともに、実にいいタイミングだと思った。

小、中学校指導要領の改訂機運の最中に、こんなすばらしいプレゼント。これをのがすことなく、このニュースを軸として改訂の中にハンドボールを是が非でも入れるように、日本協会の関係者にお願いしたい。

指導普及部において、声をからし、文書でもって普及を、指導を頼んでも、徐々にしか効果は現われない。改訂の中に入れることによって、いままで実施したくても実施できなかった地方、都市における運動場の点で、サッカーを無理に実施していた学校などでは、爆発的に実施に移されるのではないか。そのためには、指導要領の中に入れるような学習内容の研究、指導過程なども問題として早急に解決する必要に迫られると思います。直感した一部分のみ。

中学の必修課目に

万代秀三郎（北海道協会理事長）



ハンドボール競技が1972年のオリンピックから正式種目として復活したことはうれしい。もちろん世界選手権はあるが、これだけでは物たりない気持ちであった。1960年のローマ大会には、ヨーロッパに盛んな種目でもあるし、当然取り上げられるものと考えていたくらい。これでまた新しい目標もできた。本腰を入れて世界制覇を目ざし、大いに発展していきたい。最近海外遠征も多く、国際的な交流も盛んであるが、実力的には西欧諸国に一歩を譲らねばならない。ことしの中国遠征の結果を見ても楽観できない。この競技の普及が第一の条件だ。底辺の広さがよい選手を生み出す。まず中学校から必修課目に、未組織の地域への指導員の派遣など、層の広さの獲得に積極的な対策を望む。ほとんど道南地方に限られている北海道のハンドボール界。全道に三百二十もある高校で、その1割にも満たない普及率では寂しい。

練習に全力を

嶋田重春（富山県理事長）

私どもハンドボールマンにとって待望久しかったオリンピック参加。東京大会においても実現できなかったことは、非常に残念なことでありました。しかし、それまでに献身的な努力をしてきた日本ハンドボール協会幹部の方々には心から感謝しております。我が国におけるハンドボールの普及状態と競技力向上度は、まことに目ざましいものがあり、オリンピック参加の条件をじゅうぶんに備えていると確信している。国際的立場で検討した場合、必ずしも楽観を許さない。次期1968年度メキシコ大会、そしてまた1972年度欧州大会実施種目となるには、国際的視野に立ってその条件を熟慮し、かつ、即時実行に移すべき段階にあると思います。このため国際ハンドボール協会は、直ちに細密にして強力な活動を展開すべきであり、日本ハンドボール協会もアジアにおいて重大な使命を負うべきであります。日本全国のハンドボーラー各位!!私どもになしうるオリンピック参加の条件獲得運動の要諦は、一日一日の練習に全力を尽くすことかと考えられます。どうかがんばってください。

まず強化対策を外国チームとの交流を

馬場太郎（日本協会副会長）



ことし10月9日、マドリードで行なわれた国際オリンピック委員会（IOC）総会の最後の議題として、1972年（昭和47年）のオリンピック大会（開催地未定・多分欧州）のプログラムについて討議の結果、ハンドボール、柔道、アーチェリー（洋弓）の3競技を含むIOC公認の全21競技を実施することに決定された。したがって、ハンドボールは1936年（昭和11年）第11回ベルリン大会のとき（6カ国の参加、ドイツ優勝）いらい36年ぶりの復活。このことは全国20万の競技者にとって、よろこびと希望を持たせる朗報である。とともに40年来ハンドボールの道を歩んで来た私にとっても、感慨無量なものがある。

国際連盟の加盟国は欧州各国をはじめとして南北アメリカ、アフリカ、アジアの諸国で、64年7月現在で34を数えている。とくに今後はA・A諸国において増加の傾向にあるので、アジア地区のパイオニアである日本としては、今後残された六年余りの日時をアジア地区の開発と普及に努力したい。オリンピック憲章の第4節第30条のプログラムの項に、競技のプログラムは競技大会開会の少なくとも2年前に国際オリンピック委員会に提出して承認を受けなければならない。また団体競技については16カ国を越えることができないと明示されている。各地区（ゾーン）の予選を通過したチームが出場することになる。

この限られた16チームに日本がくい込まなければならぬ「難関」が一つと、女子は団体競技に出場できない点がある。東京大会にバレーボールの採った男女合計16チームのワク内にしぼった場合を考え合わせてみると、これは今後国際ハンドボール連盟（IHF）がIOCに計画を提出して承認を受ける必要が生じてくる。日本としては、男女両チームがプログラムに認められる場合を想定し、今後すべてこの後に沿って計画を立てねばならない。

まず、内には協会としての強化対策の樹立、その裏付けとして経済的な問題、人口の倍増と、よき伯楽によって優秀な素材を発見し、育成することである。外には、外国チームとの交流をどんどん行ない、身体的なハンディをいかにカバーするかの問題がポイントであろう。ハンドボール界の避地にある日本としては、広く眼を共産圏及び西欧の強力チームに向け、それぞれの対策が絶対的に必要となってくる。「繊細」な技術と脚力の必要性と、リーチの広い、比較的ラフなプレーの東欧諸国に対する研究などは海外交流により、身を持って体験するよりほかに方法がなかろう。

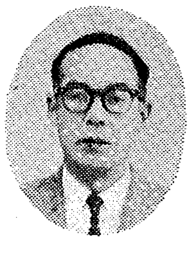
私たちは百年の大計のため、今日より与えられた6年有余の歳月を新構想によってスタートし、マイナー・スポーツからメジャー・スポーツへの脱皮の転機としなければならない。

（註）〔参考〕④、ベルリン大会は11人制のフィールドハンドボール。回、ヘルシンキ大会にエキシビジョンとして11人制のフィールドハンドボール。

* * * * * *

綿密な計画を

福島富造（東北ハンドボール連盟理事長）



1972年のオリンピック大会登場の朗報を聞き、実にうれしい。その反面、この事実が東京オリンピック大会であったならばと、関係者はだれしも残念に思ったことであろう。この朗報で、日本ハンドボール界はじめ世界各国ハンドボール界はそれぞれの立ち場において、新しいかつ正しいスタートを切ったかと心を引き締められる感がした。近年、日本代表チームの国際戦績は必ずしもわれわれ同好者の期待に沿うたものではなかった。7年後のオリンピック大会は同好者はもちろん、国民も多大な期待を寄せている。だから責任の回避は許されない。日本ハンドボール界の浮沈にかかっているといっていい。われわれ協会関係者は綿密な計画のもとに決意して進みたい。この意味において、この機会はあすのためにまたとない希望と発展を与えてくれたと確信してやまない。

実を結んだ努力

村山寛（岡山県協会会長）



1972年のオリンピックからハンドボールが参加ということは、この道に精進する者の一人として無上の喜びだ。これまで数多くの外交交渉が、会長をはじめ理事長その他の役員の方々の努力によって実を結ぶことができたと信じている。ほんとうによかった。

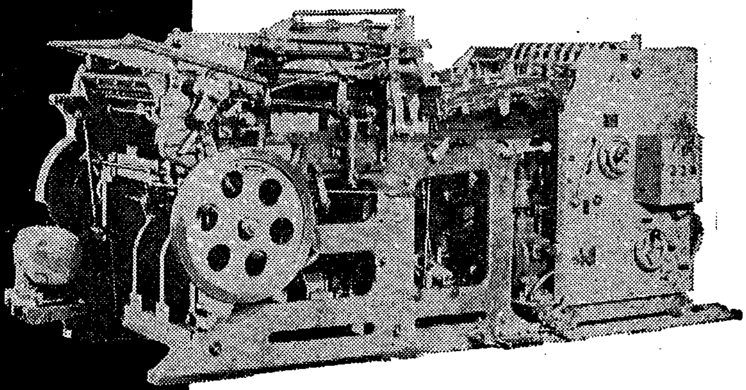
昭和35年に倉敷青陵高校庭において第11回高松宮賜杯全国高校選手権大会が行なわれ、開会式に高松宮殿下から次のおことばを頂きました。「ハンドボールもいよいよ1964年東京でのオリンピックの正式種目として認められ参加することになると思います。我が国のハンドボールも急速に技術的、精神的にもいちじるしい発展をとげてまいりました。4年後のオリンピックにはこの若いみなさん方の中から、数多く出られると思います」と申されました。宮さまの申されたように、オリンピック東京大会にはいっていたらなーと思うと残念でなりません。これから大いにがんばろう。

8

自信をもって推奨する！

千代田の

自動凸版印刷機（手差兼用）



仕様

項目	仕様
最大印刷面積	560×390m/m (1.85×1.30尺)
胴寸法	203φ×560m/m
金ローラー数	付(1本)練(1本)
ゴムローラー数	付(3本)練(2本)元(1本)
重量	1,200kg(本機) 350kg(給紙機)
所要動力	1HP(本機) ½HP(給紙機)
印刷速度	40～57枚/分
給紙方法	エヤー給紙
可能紙の種類	24.5K～150K
据付面積	1332W×2738D×1400Hm/m
紙置高	450m/m

千代田印刷機製造株式会社

本　社：東京都千代田区神田猿楽町１の４
TEL(292)2011(代)～8
横浜支社：横浜市西区高島通り１の７
TEL(045)(44)6572・7358
福岡支社：福岡市上小山町３
TEL福岡(3)3960・0153
立川工場：東京都昭島市郷地町90
TEL(0425)(2)2470・4383
九州工場：佐賀県小城郡牛津町
TEL牛津72

国内外の永年の辛苦実る

新しい力の台頭を期待

杉山　茂（NHK名古屋放送局・慶大出）



IOC（国際オリンピック委員会）がオリンピック大会の規模が回を追うごとに広がるため、競技種目の最高を18に制限したのは遠い昔のことではなかったハズだ。正直のところ、18種目というラインを引かれた以上、ハンドボールは、オリンピックの公式種目でありながら、半永久的に聖火の下で競技を展開することは不可能ではないかという悲観を私は持っていた。それがあっさり1972年の大会（開催地は来春のローマでのIOC総会で決まる）から全種目を実施することに決めたというのだから、IOC総会というのはいつものことながら〝怪物的な存在〟だ。

その無定見さにはあきれるのだが、ハンドボール関係者にしてみればこれ以上の〝朗報〟はない。ハンドボールの国際的な普及度は第2次大戦後、急カーブを描いている。「ドイツだけのスポーツ」といわれた時代は遠く去り、東欧、北欧諸国ではサッカーに次ぐ人気スポーツに成長。その競技人口からいっても、オリンピックに採用されるのはおそいくらいであった。ハンドボールが国際的に長い間、陽の目を見なかったのは〝過去の実績〟の乏しさにあろう。日本においても全く同じことがいえる。

一昨年、11人制を全廃し7人制に1本化するという大改革を施行した。それにもかかわらず、その反響はわずかに球界内部に起こっただけで、対外的には一片のニュースでしかなかった。過去における国内での関心の度合がわかろう。バレーボールが9人制主体から6人制主体へと切り替えたときの〝衝撃〟とは比べものにならないのだ。そのハンドボールが今回のIOC総会の決定で、他の20種目と同じように一躍〝世界のスポーツ〟としてクローズアップされようとしている。

日本にとっては、東京大会でいったん開催が決まりながらどたん場で削減された苦い思い出がある。それだけに、この決定は感無量である。「今度はほんとうにだいじょぶだろうか」といちまつの不安を感じ得ないのも無理からぬことであろう。期待と不安が交錯する中で、さらにもう一つ注目すべき問題が起きている。

10月のIOC総会席上「夏季大会のプログラムとなっている室内競技を冬季大会に移してはどちらか」という動議が出され、その可能性を研究する特別委員会が設けられることになったことだ。オリンピック・ハンドボールが室内競技で行なわれることは、現在の国際情勢から推して確定的と思われる。となれば、ハンドボールが冬季大会のプログラム加えられることはじゅうぶん考えられる。1972年の冬季大会開催地の有力候補として、札幌市がすでに名乗りをあげていることはご承知の方も多いはずだ。オリンピック・ハンドボールが日本で開かれるという想像してもみなかったことが起こりえないとは限らない。

10月16日に開かれた「札幌冬季五輪招致委員会」は、室内競技実施という決定に備えるだけの用意は、今からしておく必要があるという意見が多数を占めたと伝えられている。日本（札幌）開催問題はともかく、球界には世界選手権と並び二つの目標ができた。特に現在、高校球界の低学年にある者は「7年後」に大きな夢を描いている。30年になろうとする球界にかつてこれほど〝ハリ〟を感じさせるものがあっただろうか。

オリンピックという大目標が生まれた以上、過去の一切のいきさつを捨てて、新しい潮が球界に流れることを私は心から期待したい。

ナショナルチームの結成へ

越智　武（愛媛県協会理事長）



全国ハンドボール愛好者の希望と念願のオリンピック参加が、1972年にいよいよ実現することになった。長い間の関係者の努力が実ったことは、全国津々浦々の同好の士にとってこの上もない感激である。オリンピックは参加するに意義ありとか…否、スポーツには参加する以上、勝利は欠くことのできない必修の条件である。よい成績をあげ、国民の期待にそわなくてはならない義務すら感じるのである。昭和15年に東京オリンピック開催が決まったとき、私は学校を卒業する年であった。ハンドボールが公開種目として実施されるだろうと大きな期待をかけていたものである。それから30年以上の年月のあとに、正式種目となったのだから感激である。オリンピック参加、目的完遂のため、私案をご覧に入れます。

（1）ナショナルチームの結成
（2）コーチング・スタッフの確保と指導力の養成
（3）ジュニアの養成

一丸となって

山田　計（大阪協会理事長）



1972年のオリンピック実施種目——若いハンドボールマンにとっては大きな目標ができた。いまから思えば、私たちがハンドボールを始めたころは陸上競技の一部として行なわれていた。やっと独立して他の協会と肩をならべ、協会の組織づくり、このときのことがなつかしい。東京オリンピックで実施できなかったことが残念でならなかったが、1972年のオリンピックを目ざし協会としても早く全国の統一チームを結成してほしい。都道府県協会役員ならびに日本協会役員が一丸となってハンドボールの意気を大いに示すときであろう。

エールフランス

パリへの直行便 〈北極回り〉



ビジネスでヨーロッパへ旅行されるお客さまのために、エールフランスでは〈北極回り〉にボーイング707ジェット機を就航させております。

北極回り　東京発　午後　10時30分　〈水・金〉
パリ着　翌朝　9時5分

パリを中心として、ヨーロッパの各地にエールフランスの航空網が縦横にひろがっております。またエールフランスでは日本のお客さまのために、機上には日本人スチュワーデスを、ヨーロッパの各主要都市には21名の日本人駐在員を配置し、常にお客さまのお世話をいたしております。なお、南回りは〈月・火・木・土・日〉の午前10時30分パリへ向け就航しております。

AIR FRANCE
LE PLUS GRAND RÉSEAU DU MONDE
à Votre Service





東京都港区赤坂溜池　エールフランスビル　電話（584）1171代表　東京都千代田区日比谷　三井ビル　電話（501）6331代表
大阪市東区大川町淀屋橋　勧銀ビル　電話（202）6326代表　名古屋市中村区広井町3－88　大名古屋ビル　電話（54）0540

——ベルギー「体育レビュー」誌から——

学校教育としての「ハンドボール入門(2)」

ジャン・ピエブー
アンドレ・デオム

ディフェンス

A・シュートに対するディフェンス（片手）

守備選手は攻撃選手に向かって前進。左腕をからだから離し、斜め下向きに前左にあげる。ひじを軽く曲げて事故を避ける。シュートを防ぐのはこの腕である。からだを少し横に曲げキーパーの視野を妨げないようにする。全員がこの練習をしなければならない、練習のときは、その長いシャツを着ること。またできるだけ両腕の利くシュート選手を使わないこと、

守備選手から15メートル離れて一列縦隊に待機。1人ずつ走ってシュート。シュートは守備選手から1・5メートルのところから行なう。徐々にシュートの強さを増すようにする。守備選手はシュートを防ぐ。

B・顔の高さのシュートに対するディフェンス（両手）

両前腕を斜め前方に出して姿勢を整える。左または右へくるシュートに対しては両手を並べて防ぐ。

——2人ずつ向き合う。距離は4メートル。一方がシュート、他方がディフェンス。

——守備選手1人に対し、他選手は1・5メートル離れて一列縦隊待機。1人ずつ走ってシュート。

——選手3人が並ぶ。他選手は15メートル離れたところから走り、ジャンプする頭上シュート。3人並んだ守備選手も伸び上がって防ぐ。

——フリースローの場合も前記練習と同じ、ただしシュート選手は3メートルの距離に位置し、足を地面から離してはならない。また壁を作っている守備選手もこの場合決してジャンプしてはならない。

フェイント

からだのフェイントは原則として相手を離すために用いられる。そのとき相手を離そうとする方向にある足を、相手の歩幅より向こうに決して持って行ってはならない。フェイントは相手から1・5メートルのところで行なうのがいい。

A・フェイントの準備練習

（1）ボールを地面におく。選手はボールを片手で取り、シュートの体勢にはいる。次にボールを下に置くという動作を間隔をおかずにやる。

（2）円状に位置につき、中の方へ向く。足の間のボールを片手で取り、隣りの選手の足の間へ置く。交互に両方の手で、左右両方向に練習をする。

（3）片手でボールをつかみ、後ろから前へ、前から後ろへと腕を回転させる。

（4）3と同じく腕を前面で回転させる。

（5）同じく頭の上の水平面で回転させ、とっさにシュートできるようにする。

（6）3、4、5の練習を走って行なう。

（7）両足の間で8の字を書く。胴を前に曲げ、右手で前から両足の間へ持ってきたボールを左手で股の後ろから取り、前へ回す。次に右手で股の後ろから取り、前へ回す。同じことを繰り返す。

（8）中を向いて円状に列ぶ。ボールを片手で横へ送って行く。

（9）円状に列び、駆け足。ボールは2人で1個持つ。先生の合い図でボールを地面に置く。次の者がそのボールを拾う。

B・フェイントの練習

フェイントはからだを前に移動して行なうのでなく、横に移動させて行なうものである。

（1）2人ずつ1・5メートル置いて相対する。ボールを持った選手は自分の器用さに応じ、左手または両手でボールを左ひざの上方へ持って行き、うまく左へのフェイントをかける。次に右手のドリブルで右へ抜ける。

（2）1と同じ練習をゴールの前で行なう。左へのフェイントをかけたあと、ドリブルで右へ抜け、あるいはドリブルなしで右へ抜けてシュートする。

（3）2と同じ練習を走って行なう。守備選手に向かって走り、左へのフェイントをかけ、右へ抜けてシュートする。

（4）3と同じ練習を、走る途中でパスを受けて行なう。この3、4の練習の場合、オーバーステップに注意すること。

（5）1、2、3、4、と同じ練習を右へのフェイントにして行なう。左側に位置する守備選手を右へのフェイントで離し、左手のドリブルで抜き、右手のシュートをする。

（6）守備選手の前に立つ。左へスタートするフェイント。守備選手の左側で右手のシュート。

（7）3、4、5と同じ練習をスタート動作によるフェイントでなく、左へのシュートフェイントにより行なう。

（8） 3、4の練習と同じ要領で、攻撃選手は右のアンダーシュートのフェイントをし、ボールを右側の非常に低い位置まで持って行く。次に左側への腰を浮かせ、倒れ込みシュートを打つ。相手との距離が約1・5メートルのところでフェイントをするようにする。

（9） 7の練習と同じ要領で、右のアンダーシュートのフェイントのあと、腕を横に伸ばし、左側へバックシュートを打つ。この練習では足の位置が非常に重要である。右足を守備選手の右足の外側に置くようにしなければならない。そうしなければシュートを妨害される可能性が多くなる。

（10） 攻撃選手、守備選手ともゴールに背を向けて位置する。攻撃選手は右側へバックシュートをするフェイントを行ない、次に左側からアンダーシュートまたは普通の肩からのシュートを行なう。

ボールのキャッチ

胸から高いボールのキャッチには、親指を相接し、指を大きく開いておわん状にする。キャッチのとき、初めは腕を伸ずが、堅くしない。次にボールに直接触れるときを曲げ、ボールの速度を落とさせる。低いボールのキャッチには小指を相接し、他の指を大きく開腕、ボールがはまり込む進路におわん状にする。

（1） 2人ずつ対面し、胸の高さに片手でパスする。パスを手首の動作で行なうよう練習する。

（2） 同じように高いパスとキャッチ。

（3） 高いパスを、腕を伸ばしジャンプしてキャッチ。

（4） ヒザの高さのパスとキャッチ。小指を相接した状態でキャッチすること。

（5） 前記の練習を走って行なう。また距離を長くし、強さを増し、モーションを早くして行なう。

（6） バウンド・パスを行なう。

（7） 3人が一線上に位置し、他の2人端の者がボールを持ち、他の2人はボールを持った者の方を向く。真ん中の選手の足の間を通して、他方の端の者へバウンド・パスを送る。パスをして真ん中の選手と位置を入れ替える。

（8） 1対1または2対2で相対し、バウンド・パスの失点争いをさせる。2個のイスをある間隔をおいて置き、その後ろにそれぞれ選手が立つ。ボールをイスの間でバウンドさせるパスを送る。ボールがイスに触れると1点減点、またキャッチが悪いと1点減点とする。

（9） 3人と2人が2列に並び相対する。3人の列の端の選手は2人の列の方へ向かって走り、途中から2人の列の端の選手にバウンド・パスをし、そのまま2人の列の後ろにつく。パスを受けた選手は同じことを行なう。

（10） ボール1個を地面に置き、そこから数メートル離れて待機。走ってボールを拾う。手をスプーンのようにして拾う。次に2メートル先にボールを置き、元に戻る。最初は右手で拾い、次は左手で拾う。ボールを数個並べて練習を行なってもよい。ボールを拾うには、手をスプーンのようにして片手でボールを取るのがいい。しかし、この方法は不安定であるのでじゅうぶん練習すること。

（11） 10の要領でボールを拾ったあと、シュートする。

以上のキャッチ練習はすべて正面からのものである。しかし横から、あるいは斜めからさらに山形にくるボールの後ろでのキャッチなどにも備えることも必要である。また片手でのボールの受け止め動作を練習しておけば、すぐれたプレーヤーとなれる。

（12） ボールを上に投げ、片手をできるだけ高く伸ばしキャッチする。ボールが手に触れるとき、腕は伸びていなければならない。

（13） 12と同じようにして、片手でボールを自分の頭を越えて投げ、もう一方の手で取る。

（14） 2人ずつ相対し、パスする。片手でボールを受け、ボールの速度を落とさせて自己の自由にし、そのままパスを返す。

（15） 2人ずつ同じ方向に駆け足。サイドパス。片手でボールを受け、ボールのスピードを落とし、そのままパスを返す。

（16） コーチはイスの上に立ち、片手でボールを持ち、下に向ける。選手はそれに向かって走り、片手でボールを取り、ステップを2または3歩取ってシュート。ステップを取らないでシュートする練習も行なう。

（17） 円状に並び、時計の針の方向に進むようにする。最初は停止、合図により前進、次に駆け足また停止。その間にボールを前の者にパスする。前の者は後ろからくるボールを手のひらを後ろへ向けて片手で受け取る。パスは手のひらを前へ向けて行なう。そしてボールの数をふやす。

（18） 17と同じ要領でボールを前から後ろへパスする。手のひらの回転にマスターすること。

（19） ゴールから数メートルのところへ2人が横に並んで位置する。1人がパスをし、もう1人はそれを片手で受けてスピードを落とし、そのままシュートする。

（20） 前方でジャンプした選手にパス。ジャンプした選手はボールを受け、ボールのスピードを落とし、そのままシュートする。初めは受けてから3歩または2歩のステップを取ってもよい。次に優

秀選手になろうとするなら、エリア・ラインの中へジャンプしてボールを受け、そのまま地面に着く前にシュートするようにする。

パス

パスはあらゆるボール競技に共通の要素であり、その練習には限度がない。ここではパスを実施するに当たって、テクニックの細部にまではいる必要はないと思う。ただ美しいプレーを望むなら、パスをじょうずにこなす必要があることを強調しておきたい。ここでは、ハンドボールに特有のパスの練習方法をまとめて取り上げておく。これらの練習方法には、進歩の程度に応じて取られねばならない厳密な順序といったものはない。むしろすでに見てきたシュートの練習に役立つといったものもある。

（1） 円状にならび、中を向く。両手で腰の位置から横へパスする。8人以下で円を形成するのがいい。ボールの数を順次ふやしていく。

（2） 1と同じ練習を、ボールが10周するタイムを取り、3ないし4つのグループで競争させる。

（4） 2人ずつ横にならび、ゴールに向かって進む。両手で腰の位置からのパスを行ないながら進み、次にダッシュして進み、最後にシュートする。

（4） 円状にならび、歩幅を小さく駆け足。円の中の方へからだを回し、後ろの者に両手でパス。手はできるだけ長くボールを持っているようにする。8人の円でボールを2～4個使う。

（5） 3と同じ練習を、パスをして進んでいる2人の選手の、少し後ろからスタートする3番目の選手を入れて行なう。3番目の選手が2人に追いついた場合、2人は失格でシュートができない。

（6） 1列縦隊に位置する。片手のバウンド・パスを後ろの者に送る。初め停止した状態で行ない、次に歩きながら、さらに走りながら行なう。

（7） 6と同じように円状になって行なう。円の内側の手でパスを行なうこと。

（8） 6、7の要領でパスをバウンドさせないで、後ろの者の胸の高さに行なう。

（9） 6、8の要領で1回ごとに後ろへのバウンド・パスと、後ろへの胸の高さのパスを交互に行なう。

（10） コート上に大きな8の字を書き、3人がその線上を進む。両手で腰の高さからのサイドパスを送る。

（11） 2人ずつゴールに向かって、コート中央からサイドラインに沿ってスタート。次にゴールに対し、斜めに進入する。左側からスタートする者が、ボールを持ってドリブルで進行し、右側から進入してくるもう1人の前へはいり、両手で後ろへのパスをする。この右側から左側へ斜めに進入してきた選手はパスを受け、そのままドリブルで進み、ゴールの右下コーナーへ腰からのシュートを打つ。

（12） 11と同じ要領で右側の者がボールを持ち、ドリブルでゴールに向かい、斜めに進入。左側から右利き選手が斜めに進入。右側選手はクロスする前に左側選手の前へ出て、守備選手を引きつけておいてから後ろになる左側選手へ両手パス。この左側から進入してきた選手は、パスを受けてから進路をクロスさせそのままドリブルで斜めに進入し、からだを90度回転させ、左下コーナーへシュートする。

（13） 2人ずつ横に位置し、片方が前向きとすれば、他の1人は後ろ向きとなるようにそれぞれ反対方向を向く。右手で背中の後ろ

第6回男子7人制世界選手権展望

ルーマニアの優勝か

日本の善戦に期待

第6回男子7人制世界選手権大会は1967年1月、スウェーデンで開かれる。この大会には16チームが参加する。今回は25カ国が参加を申し込んでおり、すでに予選が始まっている。この予選通過チームの予想を見ていくことにしよう。

ルーマニア（前回優勝）スウェーデン（主催国）日本（アジア大陸代表）の3チームは予選なしで出場することに決まっているが、他の22カ国はそれぞれに予選を通過しなければならない。

（アメリカ大陸代表） 米国対カナダ

（アフリカ大陸代表） エジプト対チュニジア

（東地中海地域代表） ユーゴ対イスラエル

以上の6カ国はそれぞれの国で各1試合計2試合を行なう。アフリカ大陸代表はまずエジプトに間違いはないというのが大方の評判である。また前回りっぱな成績をあげ、その後の国際試合で不敗のルーマニアに土をつけたユーゴはイスラエルと対戦するが、ユーゴが圧倒的に強い。

アメリカ代表は見当がつかない。両国とも協会結成いらい日が浅い。国際試合の経験も少ない。実力がどのくらいなのか全くわからない。どちらが出るにしても本大会ではさほどの活躍は望めない。

以上2チームから1チームを選抜する3組の試合のほかは、ヨーロッパ諸国間で行なわれる3チームないし4チームのリーグ戦が五組ある。これらの各組は、総当たり2回戦（自国で1回ずつ）のリーグ戦を行ない、上位2チームが本大会に出場することになっている。第1組はデンマーク、ポーランド、アイスランド。各チームは4試合ずつ行なう。まず競技歴が古く、いつも世界選手権で大活躍のデンマークが確実視されている。もう一つの席はポーランド、アイスランドで争う。

からパスする。からだの前で両手でボールを受け取る。

(14) 13と同じ練習を左手で行なう。

(15) 13、14のパスを走って行なう。2列横隊にある距離をおいて向き合ってならぶ。両端の者が相手に向かって走り、途中ですれ違うとき、このパスを行なう。パスをする位置を決めておくこと。

(16) 円状に中を向いて位置する。左へパスのフェイントをして、右へパスの練習をする。すなわち、右手にボールを持ち、右から左へ腕を下側から持って行きパスのフェイントをする。次に新たに腕を下側で左から右へ180度回転させて右へボールを投げる。また下側から左へ持って行ったあと、上を通って180度回転させ、右へ投げる。

(17) 円状にならび、初めは停止、次に前進、駆け足。腕をゆさぶって前へのパスのフェイント。次に後ろへ腕を振り、後ろに続いてる者にボールをパス。初めは4人にボール1個、次に3人に1個、2人に1個とふやしていく。

(18) 17と同じ練習をバウンド・パスで行なう。

(19) 奇数人数が円状にならび、中を向く。星形になるよう円陣パス。パスの相手を変えない。次に最初はボール1個で行ない、ボール数個を入れる。ボールが衝突しないよう、直接のパスとバウンド・パスを使い分ける。

(20) 円状に中を向いて位置する。1人が中央にはいる。中央にパスし、ボールの後ろから中央に行く。次に中央でボールをもらい、外側にパスし、ボールの後ろから外側の位置にいく。

(21) 偶数人数が円状に中を向いて位置する。円を横切ってパス。パスしてボールの後ろを追う。

(22) 偶数人数が円状に位置する。隣の者にパスし、対角戦上の者と位置を交代する。ボール2個使う。初めは教師の合図で位置を交代する。次は自分の判断でスタート。

(23) パスを背中の後ろからのサイドパスにして、22と同じ練習を行なう。

(24) これまで述べてきた各種のパスとフェイントを、15の要領でチェンジ・パスで行なう。

(25) 24の練習を2人だけで行なう。パスをすると、お互いに相手の後ろを回り、半回転して元の位置に戻る。この練習は肉体的に激しい練習である。(続く)

大型の編成を

藤田信義(山口県協会理事長)



「10月9日のIOC総会で1972年オリンピック大会にハンドボールの復活決まる」—多年の念願であるこのニュースは、日本はもとより全世界の各関係者をいかに喜ばせたことか。考えて見ると、第11回ベルリン大会(1936年)に正式種目になっていらい36年、待望の東京大会に実現できなかっただけに、そうは喜んでばかりいられない。韓国の実力はまことに強力である。また全日本男子チームの中国遠征(1勝8敗)で、初めて中国の〝強さ〟を認識させられた。現在、アジア予選にも勝つことは疑問である。そのためには、(1)早急に中学校体育指導要領への復活を図ること(2)科学的トレーニングの徹底実施:スピードのあるたくましい選手養成(3)根性づくりの徹底(4)大型ナショナルチームを編成、外国との交流を図ること—が必要であり、ぜひ実現すべきと思う。なお、これを機会に、アジア諸国の普及発展も日本に課せられた一大使命ではなかろうか。オリンピックを目ざして各ハンドボール関係者の奮起を望む。

第2組はチェコ、ノルウェー、オーストリア。ここでは絶対確実なのがチェコ。残る一つはノルウェー、オーストリアになろう。

第3組は東ドイツ、ソ連、フィンランド。このグループはまずソ連、東ドイツは問題ない。フィンランドはよほどの努力しないとむずかしい。

第4組はハンガリー、フランス、スペインの3国。ここにはずば抜けた力を持っている国は一つもない。実力伯仲といったところ。どこが出るにしても、本大会での上位チームにはいる見込みは薄い。予選リーグとしては最もおもしろいグループとなろう。

第5グループは4チームでリーグ戦を行なう。西ドイツ、スイス、オランダ、ベルギーの4チーム。まず確実なのは西ドイツ、残る一つをオランダ、スイス、ベルギーで争う。

本大会に出場がほぼ確実なのはルーマニア、スウェーデン、日本(以上決定)、デンマーク、チェコ、東ドイツ、ソ連、西ドイツ、ユーゴ、アラブ連合の10カ国。残を6つのイスを残る15カ国が争う。ルーマニア、スウェーデン、デンマーク、チェコ、ユーゴ、東西両ドイツ、ソ連の中から優勝チームが出るのではないか。呼び声の最も高いのは、前回優勝のルーマニア、これら強豪に対して日本がどこまでやるか。それも一つの見どころになるのはアフリカ、アメリカの代表がどこまでやるか。また日本の善戦は興味の的。

国内だより

宇形製作所に女子部

宗形製作所(大阪府高槻市)は41年4月から女子チームを結成する。すでに人選も終わったという。レナウン工業(大阪)が再登場すると、大阪府下には女子実業団チームが2チームとなる。大阪協会の村田先生が協力しているという話。

41年 盛岡、42年 和歌山 インター・ハイ開催地

高体連では来年の全国高校ハンドボール選手権大会を8月3日から8日まで岩手県盛岡市で、また42年度は和歌山市で開くことに決めた。また43年度は広島県下で行なわれる公算が大きい。

故式場会長に黙とう

鴛尾武治

○…式場さんがなくなった。あの日（11月21日）私は日曜勤務で社にいた。午後三時に勤務が終わるので東京選手権大会を見に行く予定にしていた。二時半ごろ社会部から「日本ハンドボール協会の式場会長がなくなった」と連絡してきた。すでに死亡記事は準備されていたので、ものの5分とたたないうちにこのニュースは全国へ流れた。私はすぐ東京体育館にいる東京都協会の渡辺会長に電話でお知らせした。渡辺会長もビックリした。3時すぎに体育館に行き、閉会式まで見物。閉会式のとき、渡辺会長は「このうれしい表彰式の席上で申しわけないが、式場会長がきょう午後死去されました。ここに謹しんで黙とうを捧げたいと思います」——それまでざわめいていたあの広い体育館は一瞬静かとなり、渡辺会長の「黙とう」の声に、選手はじめ観客まで黙とうし、日本ハンドボール界の功労者、式場会長のごめい福を祈った。

○…東京選手権大会では、けが人が続出してたいへんだった。国士館大の湯田君が早大学院OBクラブと選手ともつれて、頭からコンクリートのフロアーに落ちた。脳シンドウを起こして意識不明。さあーたいへん。すぐ119番に電話して救急車を呼び、近くの慶応病院へ…。とりあえず荒川清美先生（日体大）が付き添いとなり、このあと渡辺会長、外山理事長が病院へ見舞いに行った。湯田君のけがはレントゲン検査の結果、たいしたこともなく、1時間後に帰宅。一同ホッとひと安心。ところが翌日、大崎電気の金田君が左マブタの上を二針も縫うけが。このほかもう一件あって計3回救急車のお世話になった。

○…東京都の渡辺会長は、日本女子チームが世界選手権大会で準決勝リーグに進出するというので「いまから西ドイツへ行く」と言いだした。これが11月4日のこと。すぐ航空会社へ連絡して手続きを開始、そして5日夜のルフトハンザ航空機で出発。その間、まる一日。とにかくあわただしい24時間だった。そして16日夜帰国、「ポーランドに勝ったときは、うれしかったね。でもデンマーク戦も日本が勝っていたんだが、レフェリーがデンマークに有利に判定した。ああいうことはよくないな。でも7位になれた。男子は昨年の大会（チェコ）で11位、これからは男子にも大いにがんばってもらわにゃ。」と早くも闘志満々。

○…12月5日に女子チームが帰国した。予定より2時間半遅れた。フランスから米国を経由し、ホノルルで2泊してじゅうぶん休養をとったのか、元気いっぱい。ホノルルには大崎電気の渡辺社長の友人がいて、日本チームのめんどうみてくれたとか。

楽書帖

すぐ次の対策を！

ふり出しに戻すな

時評

今回の日本女子チームのヨーロッパ遠征は、技術面で大成功だったと思う。ヨーロッパ各国に比べて3年ぐらい遅れているのではないかと心配したが、（1）大会終了後の国際試合で西ドイツ（世界選手権第3位）を12—8で破った（2）世界選手権でデンマークに1点差で敗れはしたが、ポーランドを破って7位にはいった（3）フランス・ナショナルチームを一方的に破った——ことが、これを完全に打ち消してくれた。世界選手権大会の計6試合は1勝5敗と、かならずしもいい成績とはいえないが、そのほかの公式国際試合、親善試合は全勝である。

親善試合のなかには、その国のナショナル・チームの選手が多数参加している。そのチームをワンサイドに押したのは、どうひいき目に見てもりっぱである。大いにほめてやるべきだ。日本女子のレベルがこんなに上がっていようとは思わなかった。これで日本ハンドボール界も大いに自信を持ったことだろう。AP、UPI、ロイター、DPA（西ドイツ）など外国通信社の電報を見ても、ほとんどが日本の技術を高く評価している。「からだは小さいが、プレーは非常に速い。しかもインテリジェンス・プレーは賞賛の的である。日本の将来は恐るべきものがある」とびっくりしているくらい。

私はここでこう思う。（1）今回のメンバーは確かに日本一である。このチームが、あと何年続くか（2）次の大会には果たしてこれだけの力を持った選手を集められるだろうか——ということだ。選手13人のうち、何人が3年先の女子世界選手権に行くか。今回の7位という地位を次の大会でどこまで伸ばすか。これは関係者にとって大きな関心事である。3年先の女子世界選手権、7年先のオリンピックのビッグ・エベントにどう対処していくか。オリンピックはいま白紙の状態である。というのは参加チームは全然未知数。男子を16にするのか、男子8、女子8にするのかは次回のIOC総会で決まる。オリンピックはあと回しにしても、3年先の女子世界選手権で上位入賞を目ざす手当てをどうするのか。今度のメンバーがガラリと変わった場合、すべてはふり出しに戻るのではないか。私はそんなことを心配している。

この心配を一挙に解決する道は、ただ一つある。それはナショナル・チームを確立することだ。女子は結婚という大きな仕事がある。選手の入れ替えは当然ある。この場合、毎年優秀選手をナショナル・チームに投入して強化して行く。次の対策をすぐ立てることを忘れないで!!（幸）



第18回　全日本学生王座決定戦

芝浦工大、堂々と5連勝

同志社大の反撃ならず

第18回全日本学生ハンドボール王座決定戦、芝浦工大（東日本）対同志社大（西日本）の試合は11月23日午後2時30分から東京・駒沢体育館で行なわれた。試合に先だち、21日死去した日本ハンドボール協会会長式場隆三郎氏のごい福を祈るため、1分間の黙とうを捧げた。

試合は前半13分まで6―6の接戦を続けたが、その後芝浦工大は速攻にものをいわせ、前半18―9とリードした。後半同志社大は必死に反撃したが、芝浦工大はこれを振り切り、第14回大会いらい5連勝、通算8度目の優勝を飾った。

この結果、芝浦工大は同志社大に5連勝を記録した。

芝浦工大 27（18―9、9―9）18 同志社大

▽レフェリー　安藤（法大出）

得	芝浦		同大	得
0	渡辺	GK	林谷	0
0	山村	GK	和保	0
7	近藤	FP	稲葉	2
2	青山	FP	佐藤	2
5	近森	FP	斎藤	3
4	吉金	FP	飯田	6
5	関根	FP	林	3
4	山田	FP	松浦	2
0	小林	FP	川井	0
0	岩崎	FP	守本	0
0	竹内	FP	薫品	0
27	（4）	7MT	（1）	18

〔写真は、芝浦工大、山田選手の飛び込みシュート〕

西日本王座に同志社大

第6回西日本学生王座決定戦は11日13日大阪市中央体育館で同志社大（関西）と広島商大（中四国）の間で争われ、同志社大が前半で試合を決め5連勝した。

同志社大 32（16―8、16―4）12 広島商大

王座決定の成績

回	年度	場所	対戦校・スコア
1	昭23	西宮	文理大 5―4 関学
2	24	駒沢	関学 5―4 日体大
3	25	西宮	関学 5―3 早大
4	26	駒沢	関学 8―7 立大
5	27	西宮	関学 9―7 日体大
6	28	神宮	関学 13―11 早大
7	29	西宮	関学 9―6 日体大
8	30	神宮	日体大 10―9 関学
9	31	西宮	芝工大 9―8 関学
10	32	後楽園	芝工大 21―11 関学
11	33	西宮	関学 12―10 芝工大
12	34	国立競技場	芝工大 24―17 関学
13	35	西宮	関学 12―11 芝工大
14	36	東京	芝工大 18―13 同大
15	37	西宮	芝工大 19―8 同大
16	38	新宿体育館	芝工大 25―17 同大
17	39	府立体育館	芝工大 24―12 同大
18	40	駒沢体育館	芝工大 27―18 同大

同志社大、9回目の優勝

関西学生秋季リーグ　攻守に精彩欠いた京大

関西学生秋季リーグ戦は10月24日から関大体育館で開幕。11月13日まで大阪市中央体育館、京都市体育館、大阪府立大体育館などで一、二部合わせて56試合が行なわれた。一部は春の優勝校京大に精彩がなく、前半で早くも2敗して優勝争いから脱落。同志社大、関学、関大の対戦に焦点が絞られたが、第6日に同志社大が接戦のすえ、関学を破った1勝が優勝へつながり、2シーズンぶり、9回目の優勝となった。同志社大は、これで秋季リーグに5年連続優勝である。

二部は大阪府大が2シーズンぶりで優勝したが、入れ替え戦では敗れ、一部昇格は成らなかった。

▽一部

チーム	得点			得点	チーム
関学	16	7−5	9−6	11	甲南大
大阪経大	19	11−9	8−9	18	京大
関大	26	16−5	10−6	11	立命大
同大	21	13−7	8−4	11	桃山大
同大	20	11−9	9−2	11	立命大
関大	28	18−6	10−7	13	桃山大
関学	29	15−13	14−6	19	大阪経大
京大	17	8−11	9−4	15	甲南大
関大	27	14−4	13−6	10	大阪経大
関学	22	11−7	11−8	15	桃山大
立命大	16	7−8	9−7	15	京大
同大	25	13−3	12−7	10	甲南大
甲南大	14	7−7	7−6	13	大阪経大
立命大	19	13−8	6−9	17	桃山大
関学	26	14−9	12−5	14	京大
関大	23	11−6	12−6	12	甲南大
京大	14	9−9	5−3	12	桃山大
同大	26	15−7	11−6	13	大阪経大
関学	36	22−5	14−4	9	立命大
同大	12	10−3	2−5	8	関大
大阪経大	14	10−6	4−7	13	立命大
甲南大	19	10−3	9−6	9	桃山大
同大	18	12−11	6−6	17	関学
京大	20	12−12	8−7	19	関大
桃山大	22	13−8	9−7	15	大阪経大
甲南大	20	10−4	10−3	7	立命大
関学	18	9−9	9−9	18	関大（引き分け）
同大	16	9−7	7−6	13	京大

【順位】①同大7戦全勝②関学5勝1敗1分け③関大4勝2敗1分け④甲南大3勝4敗（得点率0・502）⑤京大3勝4敗（0・474）⑥大阪経大2勝5敗（0・409）⑦立命大2勝5敗（0・368）⑧桃山大1勝6敗

【二部順位】①大阪府大

▽一、二部入れ替え戦

チーム	得点			得点	チーム
桃山大（一部）	16	7−6	9−9	15	大阪府大（二部）

この結果、桃山学院大は一部に残留。

中京大、男女に優勝

東海学生秋のリーグ戦は11月3日から14日まで名古屋周辺で行なわれた。男子は今季も中京大が一方的な試合を続けて全勝、12シーズン連続13回目の優勝。また二部は三重大が優勝、来季から一、二部6校制となるため自動的に一部に昇格した。

新発足の女子は三校によって争われたが、中京大が攻守に一日の長をみせて初優勝した。

▽男子一部

チーム	得点			得点	チーム
中京大	30	17−3	13−4	7	南山大
名大	20	8−5	12−10	15	岐阜大
愛知学芸大	36	18−11	18−5	16	南山大
中京大	21	11−5	10−2	7	名大
岐阜大	24	11−10	13−10	20	愛知学芸大
愛知学芸大	19	11−8	8−4	12	名大
中京大	26	11−9	15−6	15	岐阜大
南山大	19	6−11	13−4	15	名大
中京大	20	12−5	8−2	7	愛知学芸大
岐阜大	17	7−8	10−7	15	南山大

【順位】①中京大4戦全勝②愛知学芸大2勝2敗（得点率0・5

33）③岐阜大2勝2敗（0・467）④名大⑤南山大

【二部順位】①三重大6戦全勝②愛知大4勝2敗（得点率0・571）③静岡大4勝2敗（0・543）④名工大4勝2敗（0・523）⑤中部工業大（＝今季新加盟）⑥滋賀大⑦三重県立大

▽女子

中京大 7（4－3、3－1）4 中京女大

中京女大 23（10－0、13－1）1 松阪女短大

中京大 15（9－1、6－0）1 松阪女短大

【順位】①中京大②中京女大③松阪女短大

東北学院大の連勝続く

第10回（昭和40年度）東北・北海道学生選手権大会は両地区5大学が参加してリーグ戦で行なわれたが、東北学院大があぶなげなく勝ち、3年連続、6回目の優勝を飾った。

北大 24（10－10、14－1）11 山形大

東北大 23（13－8、10－4）12 岩手大

東北学院大 27（20－1、7－2）3 山形大

岩手大 16（9－9、7－3）12 山形大

東北学院大 15（6－5、9－4）9 東北大

北大 39（20－10、19－6）16 岩手大

東北大 14（8－6、6－7）13 北大

東北学院大 28（15－6、13－6）12 岩手大

東北大 29（18－5、11－3）8 山形大

東北学院大 22（11－2、11－4）6 北大

【順位】①東北学院大4戦全勝②東北大3勝1敗③北大2勝2敗④岩手大⑤山形大

金沢美工大勝つ

北信越学生秋季リーグ戦は10月31日金沢大体育館で行なわれ、金沢美術工芸大が春に続き連勝した。

金沢美大 18（12－3、6－4）7 金沢大

金沢美大 17（9－9、8－4）13 富山大

富山大 24（13－11、11－9）20 金沢大

【順位】①金沢美大②富大③金大

広商大、岡大破り優勝

秋の中・四国学生選手権大会は松山商大（愛媛）が姿を見せ、トーナメント（7校参加）で優勝が争われた。その結果、広島商大が安定した攻守で勝ち進み、決勝でも岡山大を破って6シーズン連続6回目の優勝を飾った。広島商大の優勝は、中・四国学連発足前を加えると8回目。

▽1回戦

山口大工学部 23－14 近畿大呉工学部

広島大 15－13 山口大

岡山大 36－15 松山商大

▽準決勝

広島商大 23（10－9、13－8）17 山口大工学部

岡山大 15（5－6、10－5）11 広島大

▽決勝

広島商大 26（11－8、15－7）15 岡山大

▽3位決定戦

山口大工学部 18（8－6、10－4）10 広島大

▽敗者1次戦

山口大 28－10 近畿大呉工学部

▽5位決定戦

山口大 13－8 松山商大

【順位】①広島商大②岡山大③山口大工学部④広島大⑤山口大⑥松山商大⑦近畿大呉工学部

西南学院大勝つ

九州地区大学体育大会ハンドボール競技は11月22、23の両日、鹿児島県立体育館に5校が参加してリーグ戦を行ない、西南学院大（福岡）が全勝、2年連続優勝した。

慶大"3大学"に初優勝

第5回早慶明定期戦は11月27日早大記念会堂で開かれた。開会式は故式場会長のめい福を祈って黙とうがささげられ、引き続き3試合を行なった。心・技に充実めざましい慶大が、早・明を連破して初優勝。早大の5連勝をはばんだ。

なお第2試合は第19回慶明定期戦を兼ね、対戦成績は慶大の10勝9敗となった。

慶大 15（9－3、6－9）12 早大

慶大 23（13－14、10－4）18 明大

明大 22（11－10、11－10）20 早大

【順位】①慶大②明大③早大

秋の大学定期戦

関大、教大勝つ

▽第5回関大－中京大（11月21日・関大）

関大 21（12－6、9－5）11 中京大

対戦成績は関大3勝1敗1分け

▽第8回教大－大阪経大（11月23日・大阪経済大）

教大 24（12－6、12－8）14 大阪経大

対戦成績は教大7勝1分け

関東2部は早大1位

◇二部

日大21－17法大
早大19－7東京学大
順天大15－14防衛大
法大27－11東大
法大33－10東京学大
早大15－10日大
防衛大16－15東大
順天大18－17日大
法大22－14防衛大
東大18－11東京学大
順天大30－16東京学大
日大28－13東大
早大22－11防衛大
防衛大20－9東京学大
早大23－13順天大
早大33－9東大
法大21－16順天大
防衛大15－14日大
日大25－16東京学大
東大20－18順天大
法大22－11早大

▽優勝決定戦
早大15（2－2, 13－3）5法大

【順位】①早大5勝1敗②法大5勝1敗③日大3勝3敗③順天大3勝3敗③防衛大3勝3敗⑥東大2勝4敗⑦東京学大7敗

三部は武蔵工大

◇三部

武蔵工大27－17関東学院
千葉工大32－12理科大
国士館大19－11上智大
千葉工大20－12国士館大
上智大23－14関東学院
武蔵工大26－12理科大
上智大16－11千葉工大
国士館大25－12武蔵工大
関東学院31－18理科大
武蔵工大22－16上智大
国士館大25－12理科大
千葉工大17－12関東学院
国士館大25－17関東学院
上智大23－17理科大
武蔵工大17－12千葉工大

【順位】①武蔵工大4勝1敗②国士館大4勝1敗③千葉工大3勝2敗③上智大3勝2敗⑤関東学院1勝4敗⑥理科大5敗

二、三部入れ替え戦で武蔵工大は二部に昇格、東京学芸大は三部へ転落。

日体大（女）優勝

◇女子

日体大22－2日女体大
東女体大11－7日女体大
日体大12－4東女体大
東女体大11－4日女体大
日体大17－2日女体大
日体大27－2東女体大

【順位】①日体大4勝②東女体大2勝2敗③日女体大4敗

高校男女、沖縄へ2度目の遠征

12月25日～1月4日



総務審判 徳永陸繁（世田谷工）



コーチ 砂長誠（茨城水海道二高）



南一夫（佐野工）



監督 嶋田新太郎（富山小杉高）



マネジャー 岡前儀春（東京第五商高）



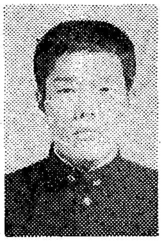
池田正明（仙台一）



監督 小袋是郎（福岡田川工高）



高橋健夫（麻生）



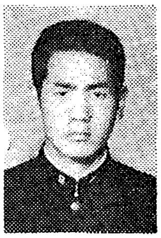
関勝之（氷見）



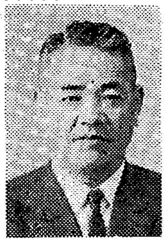
コーチ 中出盛雄（大阪枚方高）



八沢久（清水商）



雨宮孝（塩山商）



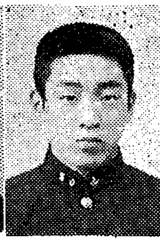
沖縄遠征の抱負

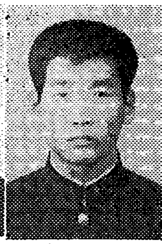
団長 村山 寛
（岡山倉敷青陵高校長）

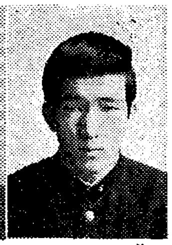
遠征する以上はりっぱなチームワーク、つまり人の和がだいじです。親善の使節として体調を整え、技術と根性とを沖縄の人たちに見ていただく。わずかな期間の練習とは思えないまでに上達している。私は頭が下がった。全国各地から集まった優秀の選手たちなので、心配はないと思う。一戦一戦を真剣にたたかい、沖縄の高校生との友情を温めてきたい。


小林八重子（静岡城北）


定塚隆子（高岡女）


白川則雄（函館有斗）


井上亮一（明石）


金子進（浦和市立）


中司千草（梅花学園）

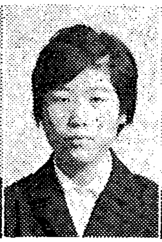

小島晴美（名女商）


中下伊津子（山陽女）


藤中憲二（岩国工）


鈴木博隆（中京商）

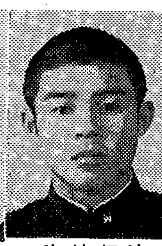

山口みさ子（笠間）


黒木芙美子（新居浜西）


古川美重子（豊中）

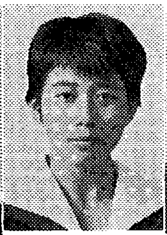

山口レイ子（明善）


小川恵子（栃木女）


塩崎信治（新居浜工）


有本充（名城大付）


沢田順子（室蘭商）


細川千枝子（栃木女）


浅井喜美子（山陽女）


垂水秀子（菊池農）


熊谷佑子（盛岡二）

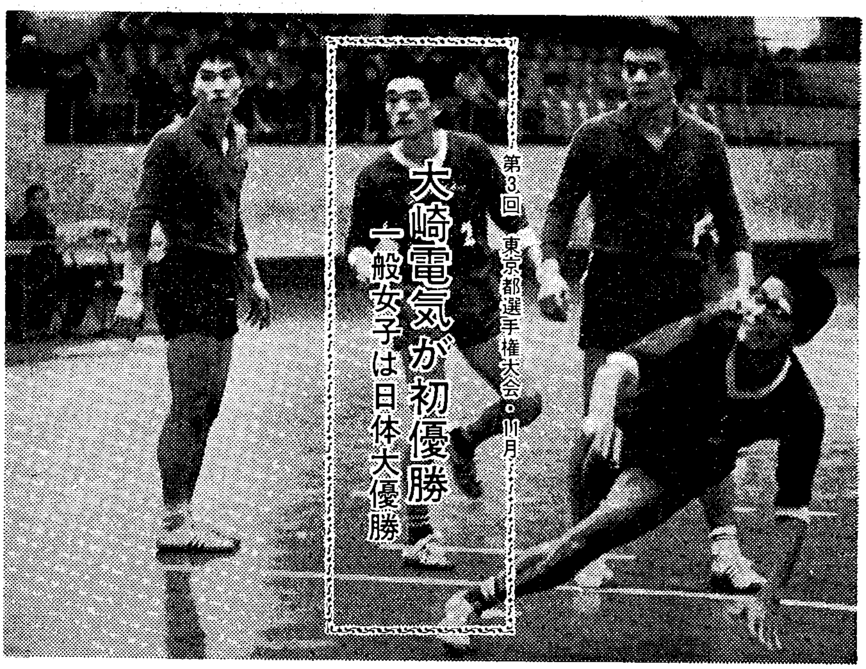

榊崇（大分商）


堤本知秀（和歌山商）

第3回東京都選手権大会・11月

大崎電気が初優勝

一般女子は日体大優勝



第3回東京都ハンドボール選手権大会は11月18日から21日まで東京都体育館で行なわれた。一般男子は27、一般女子は4、高校は男女とも4、中学は男女とも2が参加。一般男子は第3シードの千代田印刷機が2回戦で法友クに14－15で敗れる番狂わせがあったが、決勝は予想どおり全立大対大崎電気の対戦となった。立ち上がりからシーソーゲームを展開して前半は5－5とタイ。後半大崎電気は速攻にものをいわせて、全立大を15－12で破り初優勝した。一般女子はリーグ戦形式をとり、日体大が3戦3勝して初優勝、高校男子は明星が3連勝、高校女子は桜水商が初優勝した。

◇中学女子決勝

杉並中 6（3－1、5－1）4 横山中

◇中学男子決勝

深川五中 14（4－7、7－4、1－0、2－1）12 国分寺一中

◇高校女子準決勝

小平 16（6－6、10－6）12 佼成学園

桜水商 14（7－3、7－4）7 神代

◇同決勝

桜水商 11（5－1、6－6）7 小平

◇高校男子準決勝

明星 12（7－4、5－4）8 関東

中大付 18（10－5、8－2）7 神代

◇同決勝

明星 23（9－3、14－3）6 中大付

◇一般女子リーグ

東女体代 15（6－4、9－2）6 日女体大

東京重機 12（8－2、4－2）4 日女体大

日体大 16（7－1、9－2）3 東女体大

東京重機 16（8－3、8－8）11 東女体大

日体大 16（7－2、9－2）4 日女体大

日体大 16（10－4、6－8）12 東京重機

【順位】①日体大3勝②東京重機2勝1敗③東女体大1勝2敗④日女体大3敗

◇一般男子1回戦

早大 27（10－5、17－10）15 桜友会

日大 41（17－2、24－4）6 八王子教員

教大 39（19－2、20－4）6 徳高OB

中大 19（8－6、11－5）11 芝浦ク

順天大 22（13－6、9－12）18 東大

法大 19（6－6、6－6、3－1、4－1）14 慶大

法友ク 24（14－3、10－8）11 安田生命

滴水会 27（14－2、13－6）8 武蔵工大

明大 31（13－3、18－5）8 32普通科連隊

早大学院OBク 23（10－8、13－6）14 若木ク

日体大 24（12－4、12－3）7 立大

◇同2回戦

全立大 18（11－0、7－14）14 早大

教大 26（13－5、13－7）12 日大

中大 24（11－6、13－7）13 順天大

法大 28（17－12、11－15）27 日体大ク

法友ク 15（7－7、8－7）14 千代田印刷機

滴水会 20（11－5、9－6）11 明大

早大学院OBク 19（10－7、5－8、2－1、2－3）19 国士舘大　抽選勝ち

大崎電気 23（9－4、14－10）14 日体大

◇同準々決勝

全立大 31（16－7、15－11）18 教大

中大 23（12－5、11－5）10 法大

法友ク 16（4－10、10－4、1－0、1－0）14 滴水会

大崎電気 28（11－4、17－10）14 早大学院OBク

◇同準決勝

全立大 22（12－7、10－5）12 中大

大崎電気 37（16－6、21－6）12 法友ク

◇同決勝

大崎電気 15（5－5、10－7）12 全立大

得	（大崎）		（全立大）	得
0	福本	GK	尾形	0
1	田口	FP	安達	0
4	北村		中根	2
3	金田		江名	2
2	宮原藤		松本	0
2	竹野		林	0
3	井上		木野	5
0	餅原		伊東	0
0	西村		北村	3
0	小谷内		野田	0
15	（3）	7MT	（2）	12

大会終了後、本年度の優秀選手を表彰した。

「一般男子」▽GK＝福本弘（大崎電気）▽FP＝竹野奉昭、北村尚英、井上素行（以上大崎電気）安達精太、中根敏男、木野実（以上全立大）

「一般女子」▽GK＝明神熱子（日体大）、▽FP＝北村玲子、田中稔乃、北口登志子（以上日体大）斎藤光子、山崎のぶ子（以上東京重機）岡本鈴子（東女体大）

（了）

連載第20回

ハンドボール球史

〜関学、球界に大きな足跡〜

　昭和24年度も引きつづき、関西学生リーグには、加盟校の変動が見られる。
　校名の変更や出入りが激しかったことなど、15年もたった現在、その記録を整理するとなると、混乱を感じないでもない。
　この年度の春季リーグは4月下旬に開幕している。
　手元の資料では一部は関学、大阪歯大、大阪第二師範、大阪工専、関大、京大、立命館大、大阪経専それに摂南工専の9校となっている。
　9校によるリーグ戦が行なわれたかどうかはよくわからないが、最終日が6月4日ということから判断すると約1ヵ月半36試合の消化はじゅうぶんに考えられる。
　スコアがわかっているのは、そのうちの13試合にすぎないが、完全収集へのステップとして掲載しておこう。
　なお、最終日に行なわれた関学—大阪工専は、当時の新聞(毎日)によると「一位決定戦」ということになっている。
　同率による優勝決定試合だったのか、これに優勝が賭けられたというニュアンスなのか不明だが、ともかくも、関学の3シーズン連続3回目の優勝で閉幕したことは事実である。

▼昭和24年春季（一部）

大阪工専	5—3	大阪歯大
関学	10—1	立命大
大阪歯大	6—1	摂南工専
立命大	6—0	大阪二師
関大	6—1	大阪経大
大阪工専	棄権	京大
大阪工専	9—4	大阪二師
大阪歯大	4—3	大阪経大
関学	18—1	京大
関大	1(分)1	立命館大
立命大	2—1	大阪経大
大阪二師	5—0	摂南工専
関学	9—0	大阪工専

〔注〕この他の試合は記録不明

関学の連勝つづく

　秋季リーグ（昭和24年10月）は1部6校、2部5校で行なわれている。
　前季1部で試合を行なったとみられる9校のうち京大、摂南工大（摂南工専）、大阪学芸大（大阪第二師範）が2部校になっている。春季リーグの下位3校ということになろうか。
　なお、近大が新しく加盟したが、同校は大阪理工科大（昭和23年秋3位）と大阪専門などが母体となったもので、復帰ともいえる。
　しかしながら、その活動はこのシーズン限りで、後述の25年度のリーグでは、はやその姿を見ることができない。
　学制改革などの影響で近大に限らず、当時は部員集めに悩む学校が多かった。

▼昭和24年秋季（一部）

関学	2—0	関大
大阪工専	不戦勝	立命大
大阪歯大	1(分)1	大阪経大
関学	10—4	立命大
大阪工専	3—1	大阪歯大
大阪経大	3—0	関大
関学	8—2	大阪歯大
大阪工専	5—2	大阪経大
立命大	3—0	関大
関学	7—3	大阪経大
大阪工専	3(分)3	関大
大阪歯大	6—2	立命大
関学	6—1	大阪工専
大阪経大	1—0	立命大
大阪歯大	3—1	関大

【順位】①関学5戦全勝（4シーズン連続・4回目）②大阪工専3勝1敗1分③大阪経大・大阪歯大2勝2敗1分⑤立命大1勝4敗⑥関大1分4敗
【二部順位】①大阪学芸大4戦全勝②京大2勝1敗1分③摂南工大④神戸経済大⑤近畿大
▽入れ替え戦　関大5—3学芸大

各校の実力接近

　昭和25年度は、いわゆる学制改革の影響がいちばん大きかった年。春季リーグは1部5校、2部4校となり、前年好調の大阪工専も姿を消している。
　摂南工大（2部）は大阪工大と校名を変えた。また、2部には浪速大が新加盟したが、同校は現在大阪府立大として健在である。
　実力的には、ようやく各校が接近し、常勝関学が苦戦をひいられる試合も多くなり、大阪経大との一戦は引き分けに終わっている。
　2部は京大が優勝し、次季からの1部昇格を自動的に決めた。

▼昭和25年春季（一部）

関学	7—5	関大
大阪経大	3(分)3	大阪歯大
関学	6—2	立命大
関大	6—1	大阪経大
関学	11—2	大阪歯大
関大	3—1	立命大
関学	4(分)4	大阪経大
大阪歯大	6—1	立命大
大阪経大	5—3	立命大
関大	5—4	大阪歯大

【順位】①関学3勝1分（5シーズン連続・5回目）②関大3勝1敗③大阪経大1勝1敗2分④大阪歯大1勝2敗1分⑤立命館大4敗
【二部順位】①京大3戦全勝②大阪学芸大1勝1敗1分③大阪工大1勝2敗④浪速大2敗1分

再び一部6校に

　秋季リーグ（25年10月）は、二部に神戸大、大阪大が登場して5校となり、一部は1年ぶりに6校

制が復活した。

試合内容は、関学が前季の低調から脱して、5試合で71得点をあげる抜群の力を示し、6連勝を遂げた。二部では大阪学芸大が全勝し、京大に代わって一部入りを果たした。

▼昭和25年秋季（一部）

関大	4—3	立命大
大阪歯大	9—1	大阪経大
関学	24—1	京大
関学	8—4	立命大
大阪歯大	3—2	関大
大阪経大	4—2	京大
関学	8—2	大阪歯大
関大	16—1	大阪経大
立命大	8—0	京大
関学	20—1	大阪経大
関大	9—2	京大
大阪歯大	7—5	立命大
関学	11—3	関大
立命大	5—2	大阪経大
大阪歯大	12—2	京大

【順位】①関学5戦全勝②大阪歯大4勝1敗③関大3勝2敗④立命大⑤大阪経大1勝4敗⑥京大5敗

【二部順位】①大阪学芸大4戦全勝②浪速大3勝1敗③神大④大阪工大⑤大阪大

▽入れ替え戦

大阪学芸大　記録不明　京大

こうして、シーズンごとの記録を集めてみると関学の圧倒的な強さに目を見はらされる。

快進撃は、このあとさらに3年間（6シーズン）も続き、しかも、その強さは、関西学生界だけの、いわゆる〝お山の大将〟的なものではなく、全日本学生王座決定戦で第2回（昭24）以後連続6年にわたって関東側の挑戦を退けるという金字塔を樹て、王座6連勝のこの記録は未だに破られていない。

第2次大戦後の日本ハンドボール界を語るとき、学生界に君臨した関学の存在を無視することは許されないわけだ。

余談になるが、昭和21年に始められた国体各分野における大阪勢の活躍。さらには、一般東西対抗（現在廃止）で、西軍が戦後11連勝したことなどを考え合わせると、戦後のハンドボール界は、大阪を中心にした近畿圏が圧倒的な強さと、層の厚さを誇って、その〝中心地〟となっていたことになる。

それが、関東勢の奮起を呼び、東海勢、九州勢の台頭をうながす遠因になっていたとしたら、当時の関西球界の動向は、これまた日本ハンドボール史の中で、大きな存在と価値を持っていたものとして記憶されなければなるまい。

【以下次号】

11回国体の優勝チーム名

球史第16回（本誌25号）で、第11回国体一般男子に優勝した桜台ク（愛知）は、この大会以外はすべて桜丘会というチーム名で活躍しているとしたが、関係者に聞くと「桜丘会は、それ以外の名でいかなる大会にも出たことはない」ということであった。

混乱の因は、同大会のプログラムには桜丘会と記されていながら報道関係及び大会役員用に配られた競技組み合わせ表に桜丘クと刷られ、さらにそれが桜台クと伝えられたところにあるようだ。同大会の報告書も桜丘クとされている。しかし、関係者の話や、その後の大会の年次優勝記録では、桜丘会に統一されているようなので、「球史」も改めて、それにならうこととしたい。

この一件などあるいはさ細なことなのかもしれないが、やはり正確な記録や資料は整備され、保存されるべきだと思う。優勝チーム名など、特にその大会の歴史と、球界の推移を知るためにも貴重である。全日本総合選手権の女子の第一回優勝チーム名がプログラムに正しく「愛知ク」と載せられたのは記者の記憶では昨年が初めてだ。それまでは、まったく別チームが〝優勝者〟にされていたというルーズさである。

全日本　女子リーグ開催か

全日本実業団ハンドボール連盟（古賀和佐雄会長＝千代田印刷機製造社長）は、連盟発足を機に日本リーグを開催する意向を固めた。近く古賀会長と渡辺理事長（大崎電気工業社長）が会って具体的な話を進める。

これはサッカーの日本リーグの向こうを張って、女子リーグで対抗しようというねらいである。渡辺理事長の私案は女子チームとし、リターンマッチ方式である。東京、浦和、名古屋、横浜、四日市、大阪、大垣、熊本で開き、2回戦総当たりまたは4回戦総当たり制。4カ月ないし6カ月のロングランという構想。41年度から実施の意向。古賀—渡辺会談で話がまとまれば、女子チームの各オーナーを集めて協議の予定。

レナウン再登場

40年4月から社内事情で休部していたレナウン工業（東京）が、41年4月から再登場する。塩川安賢監督は「1年間休部していたのは寂しかった。41年から再び部活動を始める見通しがつきました。会社の上司とよく相談してから態度を決めます。41年は地ならし程度にして、42年に目標を置くつもりです」と話していた。

編集後記

○…式場会長の葬儀は実にりっぱだった。生前における故人の偉大なる業績に頭が下がった。田畑政治氏が「オリンピックを見てもらいたかった」と追悼文を書いているが、われわれ関係者でさえもそう思う。ただごめい福を祈るのみ。

○…後任会長はどうなるのか。球界関係者の関心の的である。オリンピックを6年後に控えているだけに、責任が重い。協会の総力をあげて適任者を早く決めてほしいものです。ウワサに上ぼっている人が2、3人いるが、真にハンドボールを愛好してくれる人を望みたい。

○…世界選手権に出場した女子チームは7位となり、親善試合を含めた通算成績は17勝5敗1引き分け。これはほめていい。高嶋団長も「大いに自信を持っていい」といっているくらいだから本物。鈴木功子さんが左マブタを負傷したが、羽田に着いたときは完全に直っていた。女性だけに心配していたんだが…ホッとひと安心。

○…40年度休部していたレナウンが41年度から再スタートするという。大阪の宗形製作所に女子チームができるという。41年度は大いにたのしみ。（ふぐ）

ユニとはただ一つの意味

ユニとは品質の最高を表わし、また材料や工程の一つ一つに類がないことを表わします。ユニは唯一つ最高の鉛筆です。

GH－6B17硬度 1ダース￥600

三菱鉛筆



日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第二十九号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十年十二月二十日印刷 昭和四十年十二月二十五日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区南町二五
電話大代表 二一一一
振替東京 二四八番
編集兼発行人 高嶋冽
定価百三十円 (〒二十円)